

(最終案)

松江市まち・ひと・しごと創生
《人口ビジョン》
《第2次総合戦略》

～松江らしさを磨き、共に未来を切り拓く～

令和●年●月

松江市

—目次—

第1部：松江市まち・ひと・しごと創生《人口ビジョン》

1. 人口の現状分析	1
(1) 日本の人口の現状と将来推計	1
(2) 松江市の人口動向分析	3
(3) 圏域人口60万人維持への取組 ～中海・宍道湖・大山圏域～	18
(4) 人口減少が地域に与える影響	21
2. 人口の将来推計	22
(1) 人口の将来推計	22
(2) 人口推計についての考察	24
(3) 新人口ビジョンの考え方	24

第2部：松江市まち・ひと・しごと創生《第2次総合戦略》

1. 第1次総合戦略の取組と第2次総合戦略で重点的に取り組む事項	28
(1) 本市の人口減少の要因について	28
(2) 第1次総合戦略の取組	29
(3) 第2次総合戦略で重点的に取り組む事項 『若者・女性がもっと暮らしやすいまち』をめざして	32
(4) 新たな視点	33
(5) 第2次総合戦略の位置づけと対象期間	33
2. 地方創生に取り組む基本方針について	35
(1) 松江らしさに磨きを掛け「選ばれるまち松江」の実現をめざす	35
(2) 2つの挑戦・5つの基本目標・13の重点プロジェクト	36
(3) 「市民運動」による取組の推進	38

- (4) PDCAサイクルによる徹底した施策評価と見直し・・・・・・・・・・38
- (5) 地域経済分析（RESASの活用など）・・・・・・・・・・39

3. 基本目標を実現するための具体的な取組について

40

基本目標1 若い世代の希望を生み出す個性豊かで地域の特徴を生かした産業と雇用を創出する・・40

- ①きらりと光る元気な企業群づくりプロジェクト
- ②農林水産業の成長産業化プロジェクト
- ③観光産業のバージョンアップ・インバウンド強化プロジェクト
- ④文化の多様な価値の創造と好循環プロジェクト

基本目標2 松江の魅力に磨きを掛け、新しい人の流れをつくる・・・・・・・・44

- ①拠点化推進プロジェクト
- ②人材還流・松江暮らし推進プロジェクト
- ③関係人口の創出・拡大プロジェクト
- ④未来を担う次世代“人財”育成プロジェクト

基本目標3 一人ひとりが個性と多様性を尊重され、誰もが活躍できる地域社会をつくる・・47

- ①結婚支援の充実と子育て環境日本一実現プロジェクト
- ②女性の活躍促進、誰もが活躍できる地域社会の実現プロジェクト

基本目標4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる・・・・・・・・50

- ①健康都市まつえ・スポーツによるまちづくりプロジェクト
- ②松江の魅力を高める環境・都市デザイン推進プロジェクト
- ③国土強靱化、安心安全なまちづくりプロジェクト

基本目標5 中海・宍道湖・大山圏域の連携強化により、日本海側の拠点をつくる・・・・・・・・53

資料編

- I 松江市まちづくりのための市民アンケート調査 調査結果（概要）
- II 「松江市まち・ひと・しごと創生《人口ビジョン》《第2次総合戦略》」に関するご意見・ご提案等
- III 松江市まち・ひと・しごと創生《人口ビジョン》《第2次総合戦略》策定の歩み

別冊 基本目標を実現するための具体的な取組一覧

第1部：松江市まち・ひと・しごと創生《人口ビジョン》

1. 人口の現状分析

【はじめに】

本市では人口減少に立ち向かうため、平成27年10月に「松江市まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン 第1次総合戦略」を策定しました。人口減少の継続が避けられないなか、過去の人口動態を振り返り、今後の出生数、転入数、転出数などの推計から将来人口の目標を定め、この目標を達成するための取組を進めてきました。

策定から5年目となる本年は、第1次総合戦略の取組とその結果について検証するとともに、国が示した新たな人口推計を参照し、本市の新たな人口ビジョンを策定します。

(1) 日本の人口の現状と将来推計

①人口減少・少子高齢化

日本の総人口は、2008年をピークに減少局面に入りました。2018年10月1日現在の人口推計¹によると、日本の総人口は、1億2,644万3千人で、前年に比べて26万3千人の減少と、8年連続の減少となっています。

65歳以上の高齢者人口は、3,557万8千人、高齢化率28.1%と、日本の高齢化は世界的にみても空前の速度と規模で進行しています。

合計特殊出生率²は、2018年で1.42と人口置換水準³を下回る状態が40年以上続いています。年間出生数は、100万4千人(2014年)から91万8千人(2018年)となっており、全国的な出生数の減少が続いています。

生産年齢人口は、7,785万人(2014年)から7,545万人(2018年)へと240万人減少しています。

1 人口推計：総務省「人口推計（平成30年10月1日現在）」（2019年4月12日公表）

2 合計特殊出生率：15歳～49歳の女性（5歳ごと）が1年間に産んだ子どもの数から算出した年代別の出生率を合計したもので、1人の女性が生涯に産むことが見込まれる子どもの数を推定する指標。

3 人口置換水準：人口規模が維持される水準。国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2019」によると、2001年から2016年は2.07で推移し、2017年は2.06となっている。

②東京一極集中

依然として東京一極集中の傾向が続いており、2018年は日本人移動者で13万6千人の転入超過(23年連続)を記録しています(転出者数35万5千人に対し転入者数49万1千人)。

転入超過数の大半は若年層であり、2018年は15歳～29歳で12万人を超えています。また、近年は女性の転入超過数が増加傾向にあります。

③将来推計

国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)
「日本の将来推計人口(平成29年推計)」によると、2060年の総人口は約9,300万人まで減少すると推計されています。

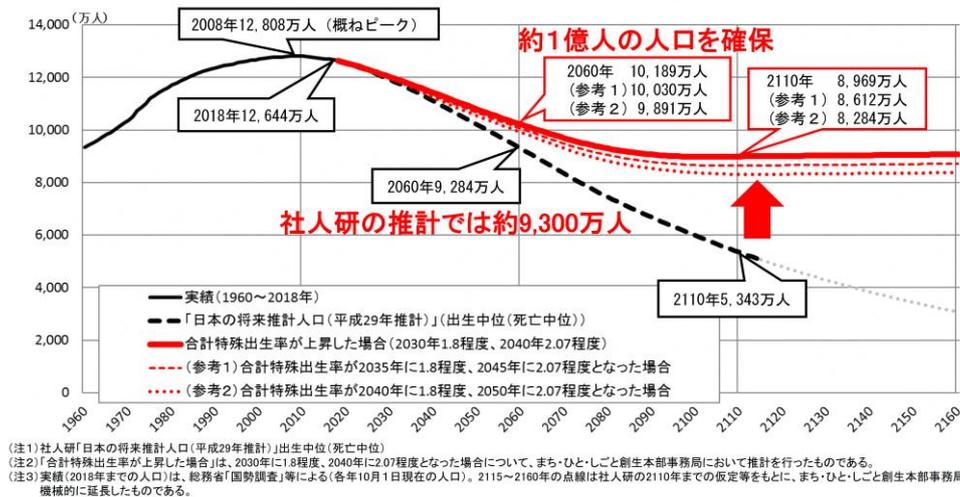
今後、合計特殊出生率が向上し、2030年に1.8程度、2040年に2.07程度まで上昇すると、2060年の人口は約1億200万人となり、長期的には9,000万人程度でおおむね安定的に推移するものと推計されています。

【図1 日本の人口の推移と長期的な見通し】

まち・ひと・しごと創生長期ビジョン(令和元年改訂版)

- 社人研の推計(注1)によると、2060年の総人口は約9,300万人まで減少。
- 仮に合計特殊出生率が上昇(注2)すると、2060年は約1億人の人口を確保。
長期的にも約9,000万人で概ね安定的に推移すると推計。
- 仮に合計特殊出生率の向上が5年遅くなると、将来の定常人口が約300万人少なくなると推計。

我が国の人口の推移と長期的な見通し



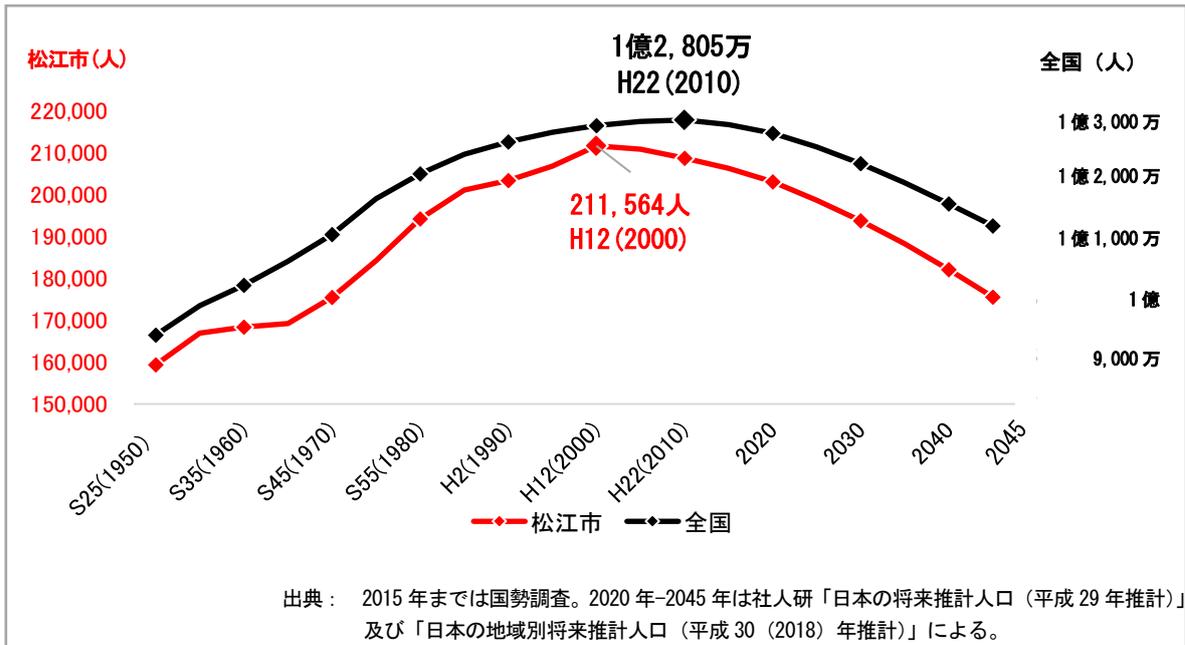
出典：まち・ひと・しごと創生長期ビジョン(令和元年度改訂版)及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(概要)

(2) 松江市の人口動向分析

①総人口の推移

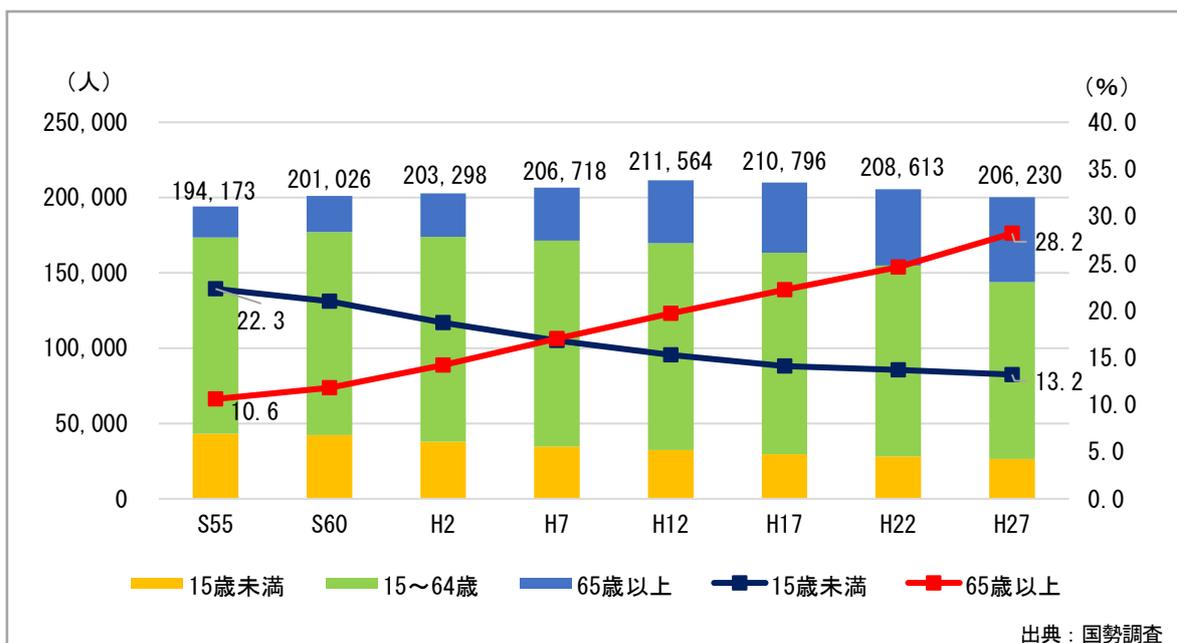
本市の総人口は、全国の推移よりも早く平成 17 年の国勢調査で減少に転じています。また、本市の総人口の動向は、概ね全国の動向に近い動きを示す傾向にあります。【図 2】

【図 2 総人口の推移】 各年 10 月 1 日現在



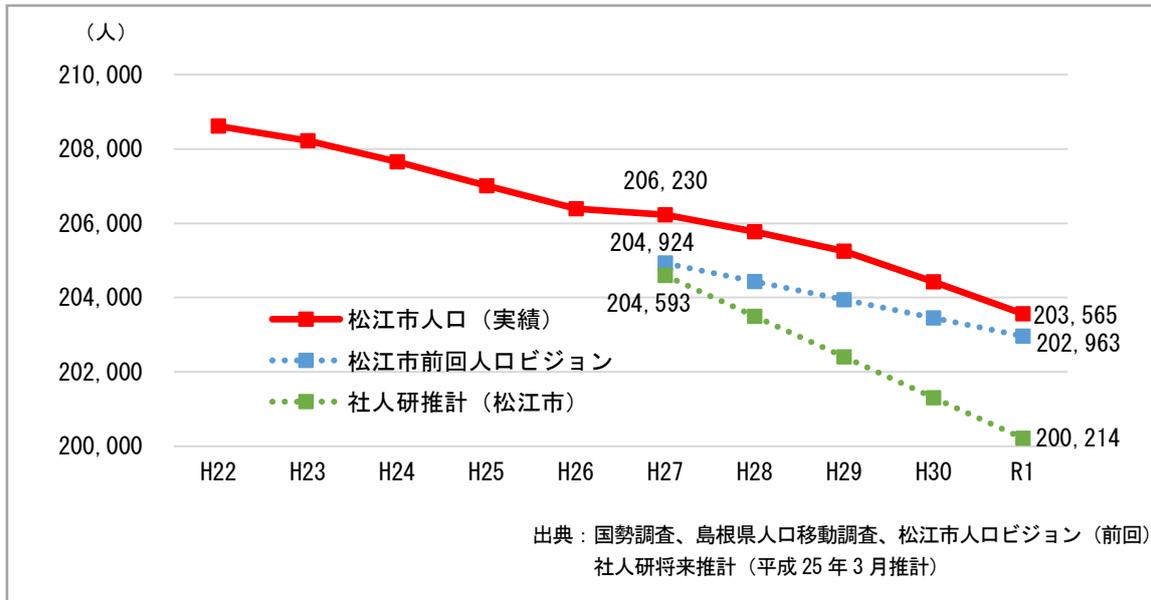
年代 3 区分別の状況を見ると、65 歳以上の高齢者が実数、比率ともに伸びており、15 歳未満の年少人口は減少しています。【図 3】

【図 3 松江市 年代 3 区分別人口の推移】 各年 10 月 1 日現在



令和元年 10 月 1 日現在の本市の推計人口⁴は 203,565 人となり、平成 27 年 10 月 1 日の 206,230 人に比べて 2,665 人減少しています。この推計人口は、本市の前回人口ビジョンで推計した人口 202,963 人を上回って推移しています。【図 4】

【図 4 松江市 人口の推移（松江市実績、前回人口ビジョン、社人研推計）】各年 10 月 1 日現在



②自然動態と社会動態

人口の増減は、自然動態（出生者数と死亡者数）と社会動態（転入者数と転出者数）で決まります。

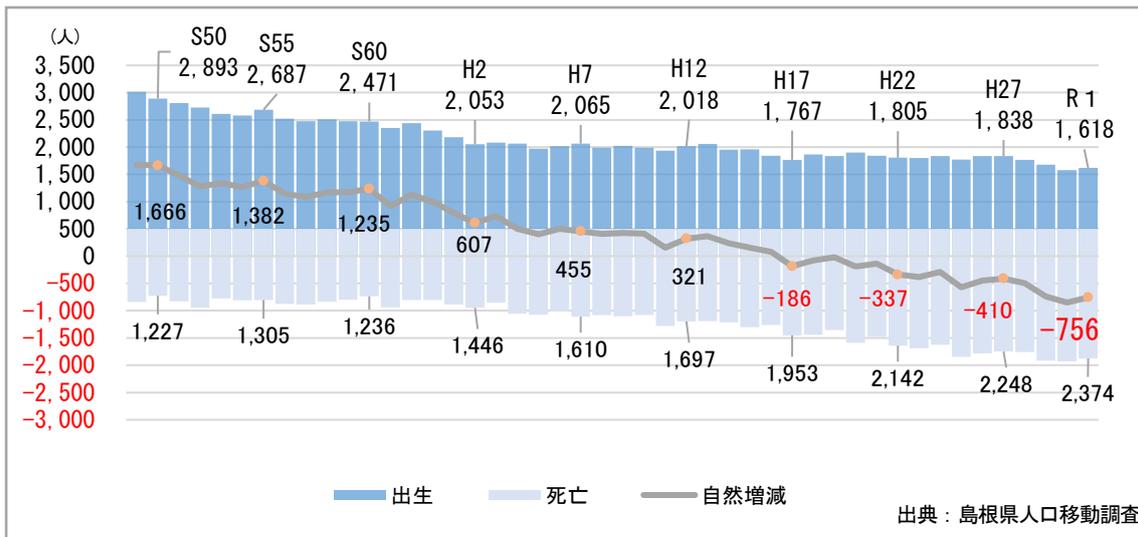
本市は前回人口ビジョンにおいて、2060 年に人口 18 万人を確保する目標を達成するため、年間出生数 2000 人、年間社会増 270 人の挑戦を掲げています。この間の出生数ならびに社会増減をみると、出生数は平成 28 年 1,766 人、平成 29 年 1,676 人、平成 30 年 1,576 人、令和元年 1,618 人であり、また社会増減は平成 28 年 40 人増、平成 29 年 214 人増、平成 30 年 29 人増、令和元年 107 人減で推移しており、それぞれ挑戦として掲げた数値には達していません。

⁴ 推計人口：国勢調査による確報値を基礎として、毎月の住民基本台帳の出生・死亡・転入・転出を加減して算出した人口

自然動態（出生者数と死亡者数）

生まれる人より亡くなる人が多い状態は平成 17 年から続いており、令和元年では 756 人も多くなるなど、近年その差が拡大しています。今後は団塊ジュニア世代（1971 年～1974 年生まれ）が高齢者になっていくなど、高齢化がさらに進むと予想されます。医療の進歩や健康寿命の延伸を考慮に入れたとしても、亡くなる人の多い状態は高齢化の更なる進行により 2040 年前後まで続くと考えられます。【図 5】

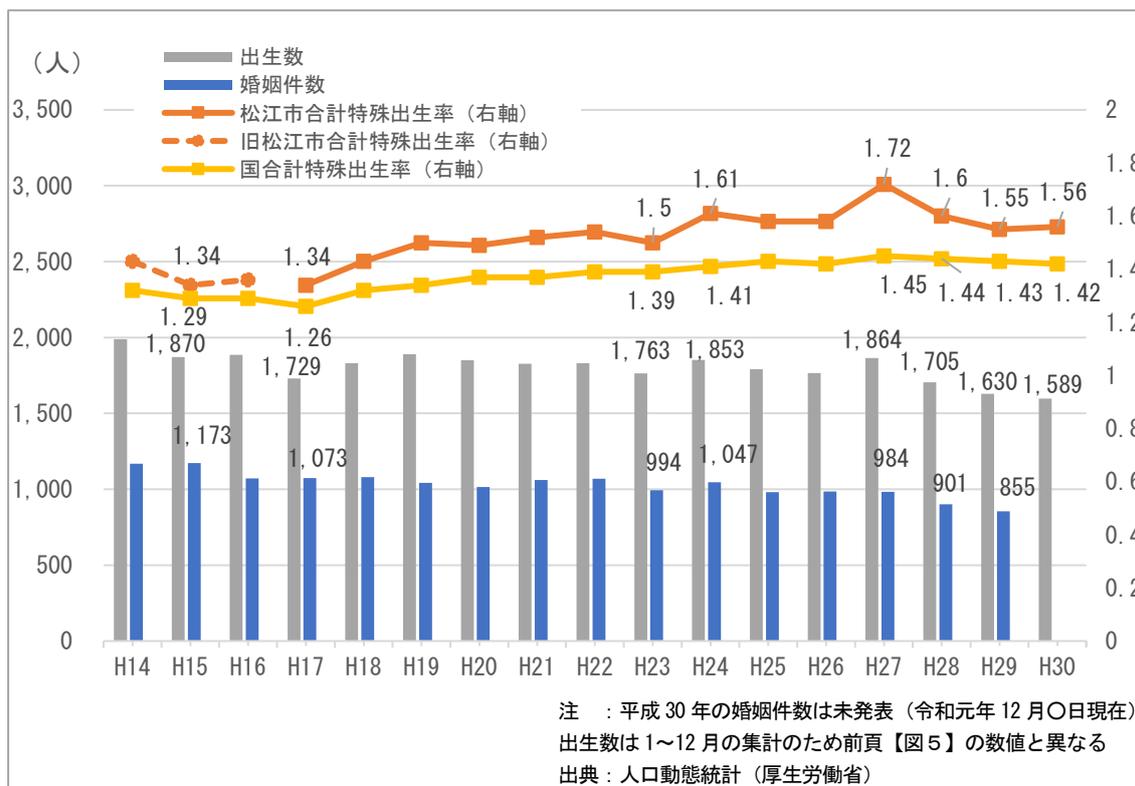
【図 5 松江市 自然動態の推移】 各年 10 月 1 日現在



次に合計特殊出生率の推移をみると【図 6】、平成 15 年から 17 年に 1.34 となった後は上昇傾向にあり、平成 27 年に 1.72 となって以降は平成 28 年 1.60、平成 29 年 1.55、平成 30 年 1.56 で推移しており、全国の傾向と同じく、平成 17 年前後から総じて上昇傾向にあります。この上昇に至った理由は様々に議論されていますが、団塊ジュニア世代が出産適齢期の終盤に差しかったことから、出生数が増加したためともいわれています。

しかし、本市の出産、子育て世代である 20～39 歳の若者人口は、その世代の出生数が全国的に少なかったことや転出などから減少傾向にあり、平成 17 年 10 月 1 日に男女合計で 53,075 人だった同世代の若者は、14 年後の令和元年 10 月 1 日には 38,850 人となり、14,225 人減少しています。合計特殊出生率が高くても生まれる子どもの数が近年減少傾向にあるのは、この世代の人口が減少していることが大きな理由です。

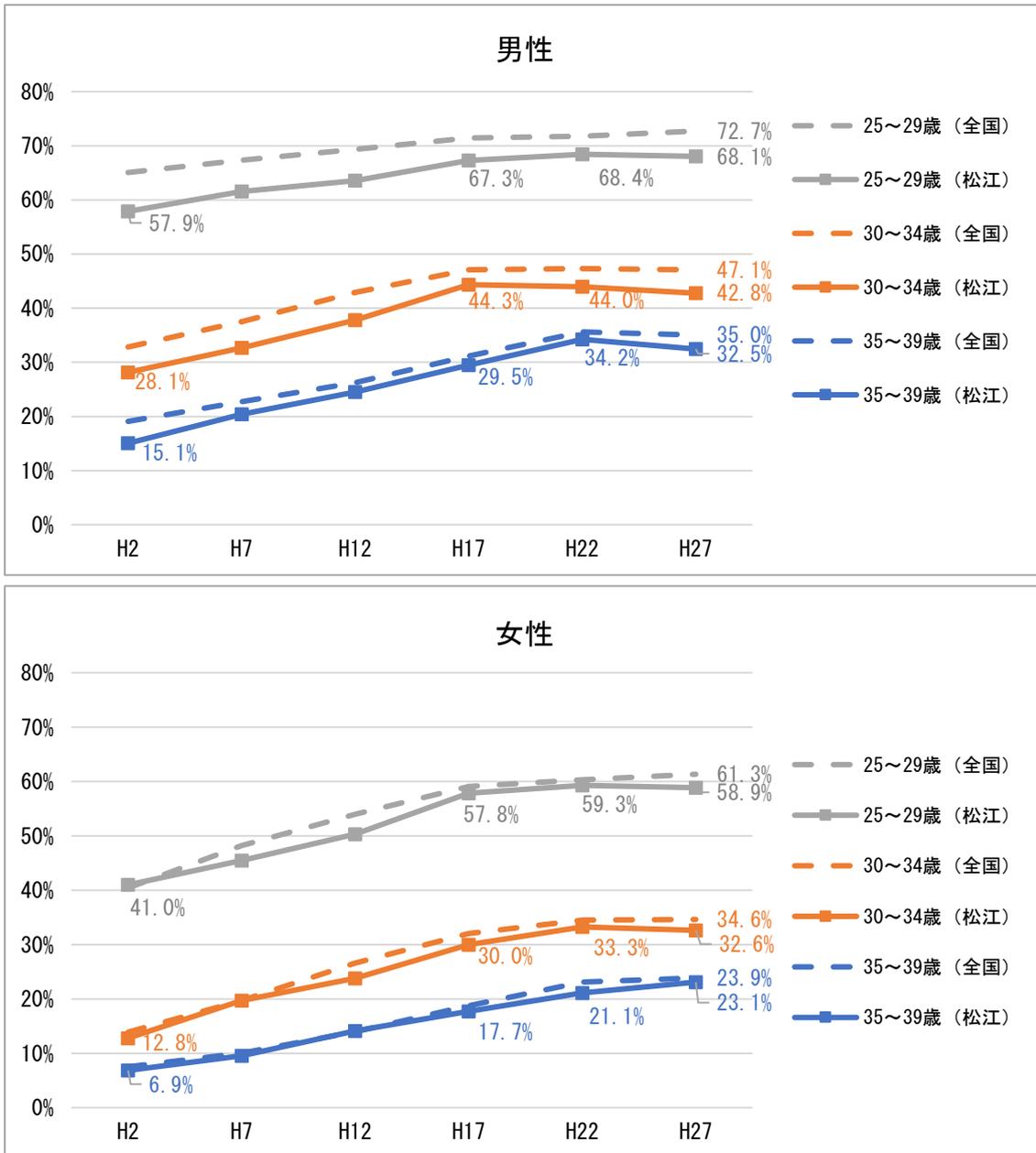
【図6 松江市の出生数、婚姻件数、合計特殊出生率の推移】各年1月1日現在



また、全国的に未婚率が総じて上昇傾向にあります。本市においてもその傾向が見られ、婚姻数の減少は出生数の低下の要因として考えられます。【図7】 全国的な傾向である未婚率上昇の原因については、女性の進学率の向上や社会進出の進展によって従来の男性は仕事をしつつ経済的に家庭を支え、女性は育児をしつつ家庭を守るといったような価値観が変化したこと、就業しながら子どもを産み育てることが労働条件的に難しい場合があることなどが理由とされています。

また、ロストジェネレーションという言葉も昨今聞かれるようになりました。このジェネレーション（世代）には、バブル経済崩壊後の雇用情勢の悪化から就職できなかつたり、正規労働者として就労できなかった現在30代から40代の人たちが当てはまるとされています。これらの人たちが、自身の経済事情などから将来に不安を抱き、結婚や子どもを持つことをためらう傾向があることも出生数低下の一因であるといわれています。なお、平成22年と平成27年を比較すると、年代によっては未婚率の低下もみられることから、これからの傾向を注視していきたいと思えます。

【図7 年代別未婚率の推移（松江市、全国）】



注：松江市のH2～H12には、合併前の旧八束郡を含まない。
 松江市のH17、H22には旧東出雲町を含まない。
 出典：国勢調査

次に理想とする子どもを持つことに対する市民の意識について紹介します。市民アンケートの結果によると（次頁）、多くの方が2人以上の子どもを持ちたいと思っていますが、様々な理由により理想とする子どもの数に達していないことが分かります。

～ 理想とする子どもの人数について 市民アンケートの結果から～

【松江市まちづくりのための市民アンケート調査】

調査期間：令和元年6月10日～6月24日

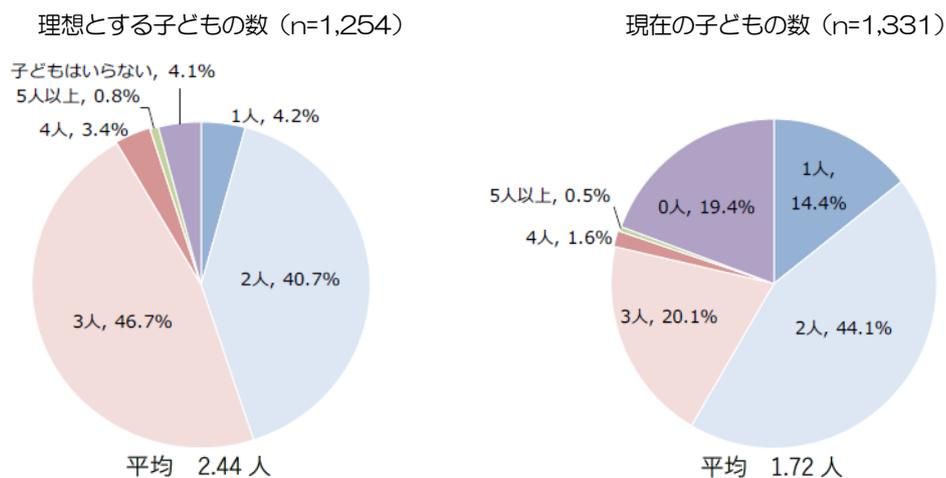
調査対象：18歳以上の松江市在住者から無作為に抽出した3,200人

回収数/配布数/回収率：1,432/3,200/44.8%

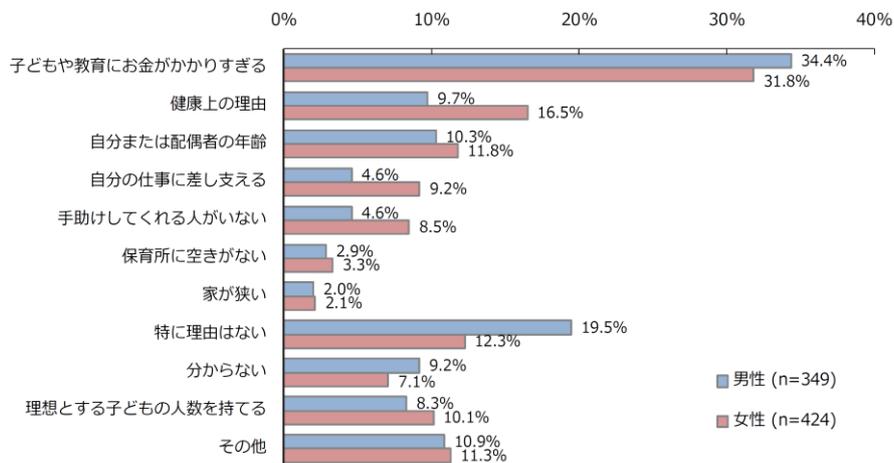
理想とする子どもの人数についての回答では、3人（46.7%）、2人（40.7%）、1人（4.2%）、子どもはいない（4.1%）、4人（3.4%）、5人以上（0.8%）となり、多くの人が2人以上の子どもを持ちたいと思っ

ていることが分かります。理想とする子どもの人数を持たなかった・持てない、または「子どもはいない」と思う理由は、「子どもや教育にお金がかかりすぎる（32.9%）」が最も多く、「特に理由はない（15.7%）」「健康上の理由（13.5%）」と続いています。

【図8 理想とする子どもの数と現在の子どもの数】



【図9 理想とする子どもの人数を持たなかった・持てない、または「子どもがいない」と思う理由 (n=776)】

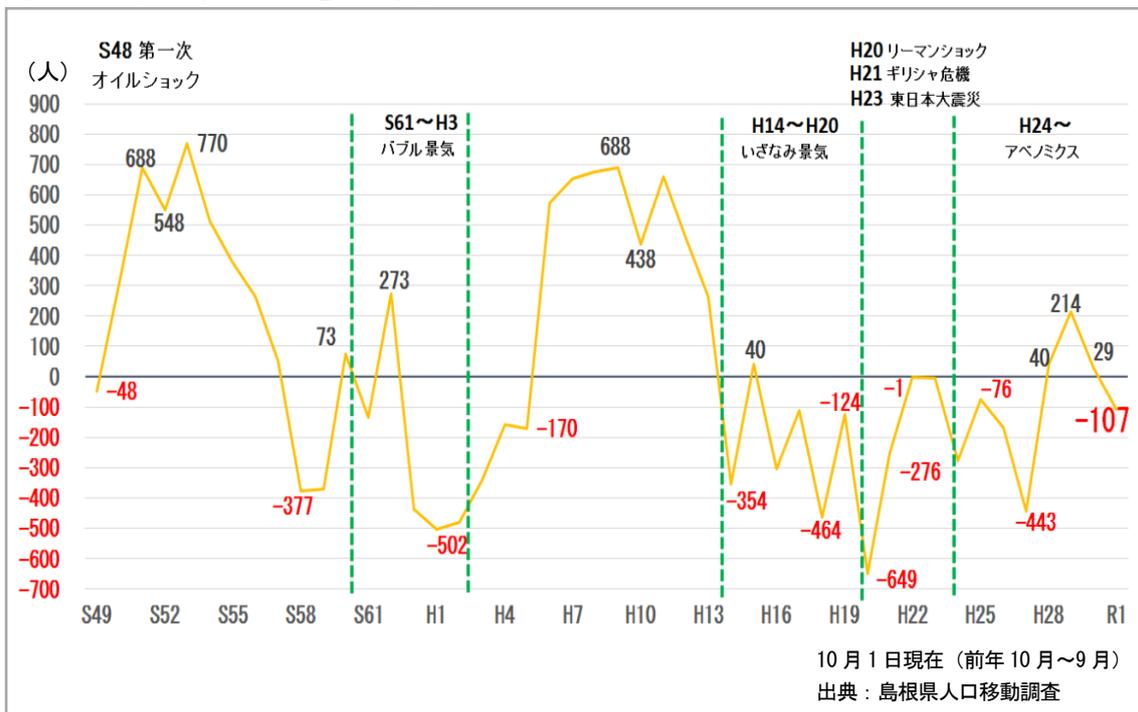


社会動態（転入者数と転出者数）

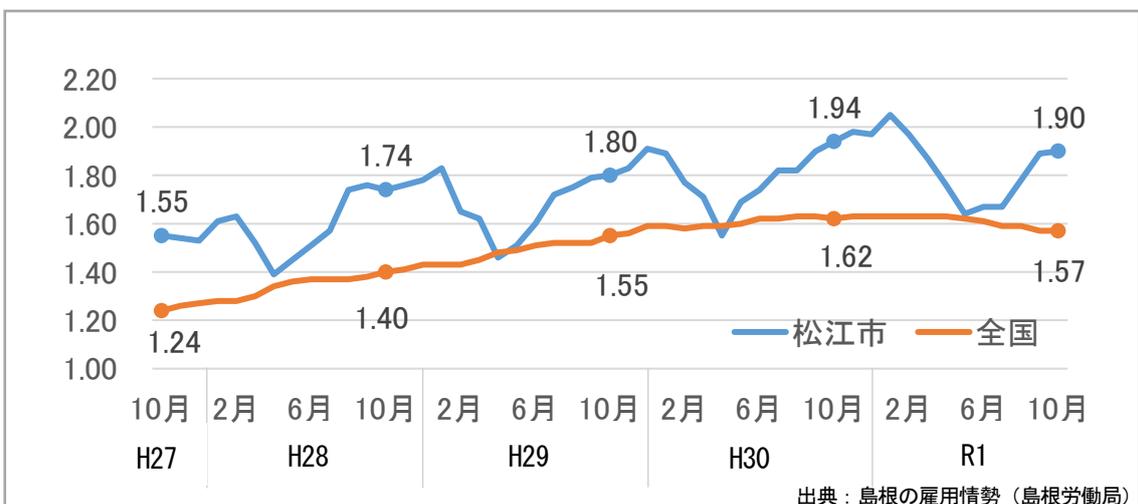
本市の過去の社会動態は、景気が良くなると都会へ職を求めて転出する人が増え社会減となり、景気が悪くなると地元に戻ったり留まったりすることから社会増となる傾向がみられました。

本市の近年の状況は、平成 27 年から平成 30 年の 3 年間で社会増、令和元年は社会減となりました。しかし引き続き求人倍率の上昇傾向が続き、市内で就職しやすくなっているなど、社会増となりやすい傾向は続いています。本市の有効求人倍率をみると、平成 27 年 10 月の 1.55 から令和元年 10 月には 1.90 となっています。

【図 10 松江市 社会動態の推移】



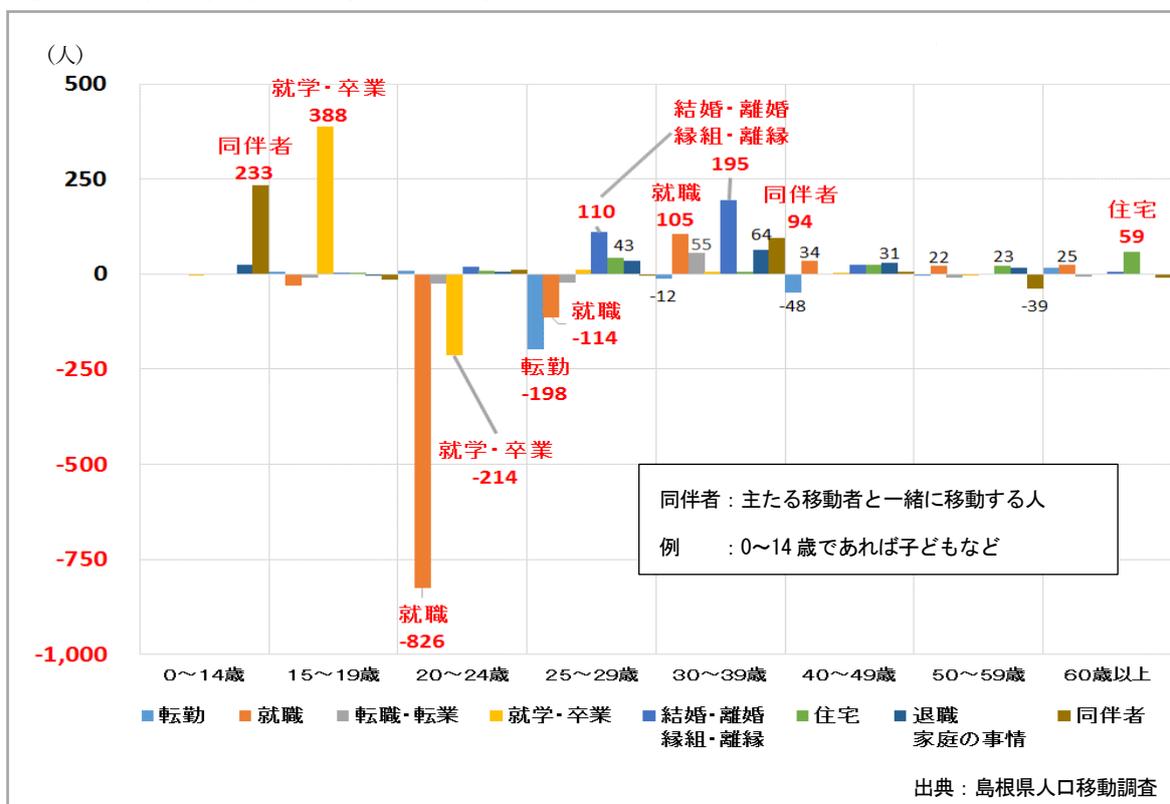
【図 11 有効求人倍率の推移（松江市、全国）】



社会動態を県外・県内に分けると、対県外では、転出する人の方が多い傾向は従来から変わりませんが、理由別では、就職を理由とした転入が近年増加傾向を示しており、反対に就職を理由とした転出は減少傾向にあります。（※社会増の要因は転入増のみでなく、転出減によっても生じます）

また、対県内についてみると、特に30代の子育て世代の転出が減っている一方で、この世代において、住宅やマンションを購入するなどして転入する人が増えていることが伺えます。30代については、特に未就学児を中心とした子どもと共に転入してくる人も目立ちます。

【図 12 松江市 年代別・移動理由別移動者数】平成 27 年 10 月～令和元年 9 月

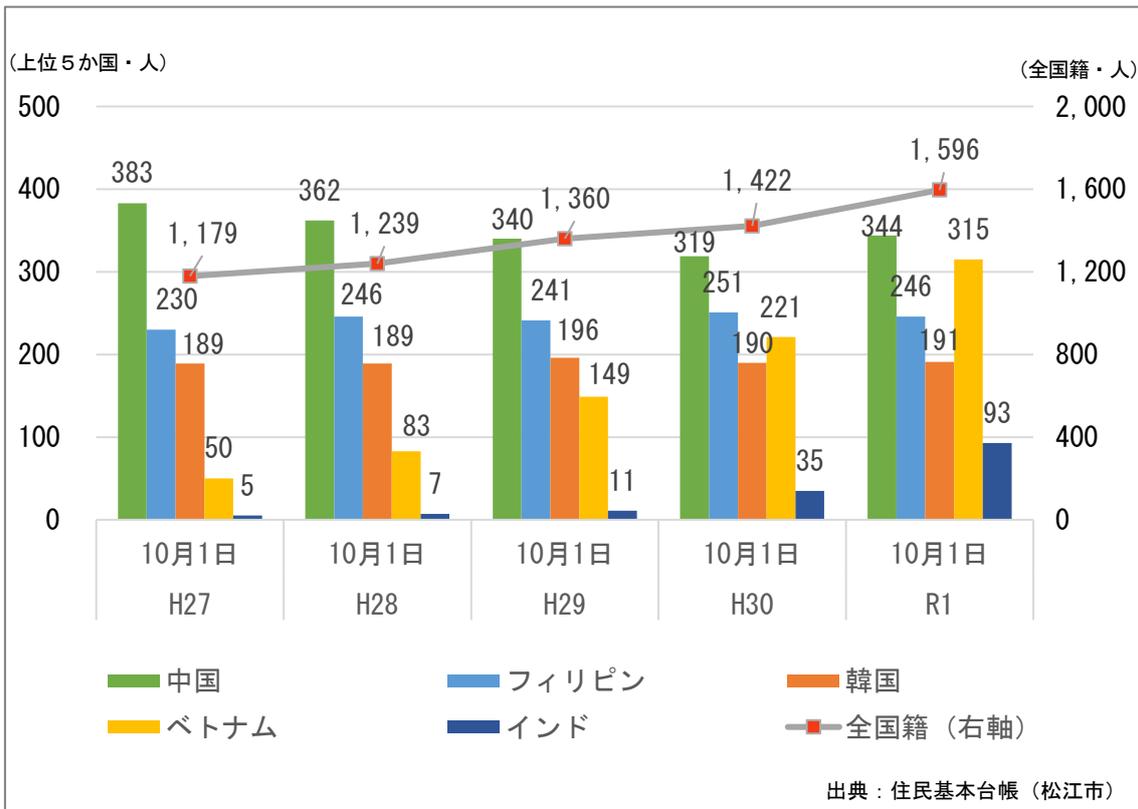


(外国人の増加)

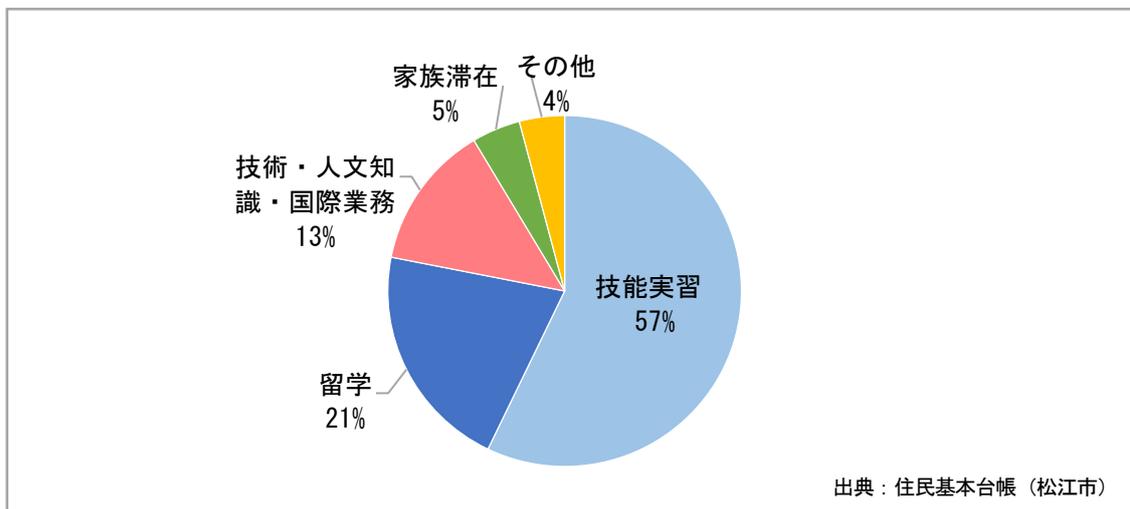
また、近年は全国的な傾向として外国人が増加しており、本市においても社会増の要因の一つと考えられます。

本市の外国人住民は一貫して増加傾向にあり、平成 27 年 10 月 1 日現在の 1,179 人から、令和元年 10 月 1 日現在では 1,596 人となりました。国籍別ではベトナムとインドからの転入が特に増加しており、ベトナム人は技能実習を中心とした労働者や日本語を学ぶ留学生としての転入が多く、平成 27 年 10 月 1 日現在の 50 人から令和元年 10 月 1 日現在では 315 人となり、6 倍以上の増加となりました。【図 13、14】

【図 13 外国人登録者数の推移（総数、国籍別上位5か国）】



【図 14 在留資格別の住民登録者数の推移（ベトナム国籍）】 令和元年 10月1日現在



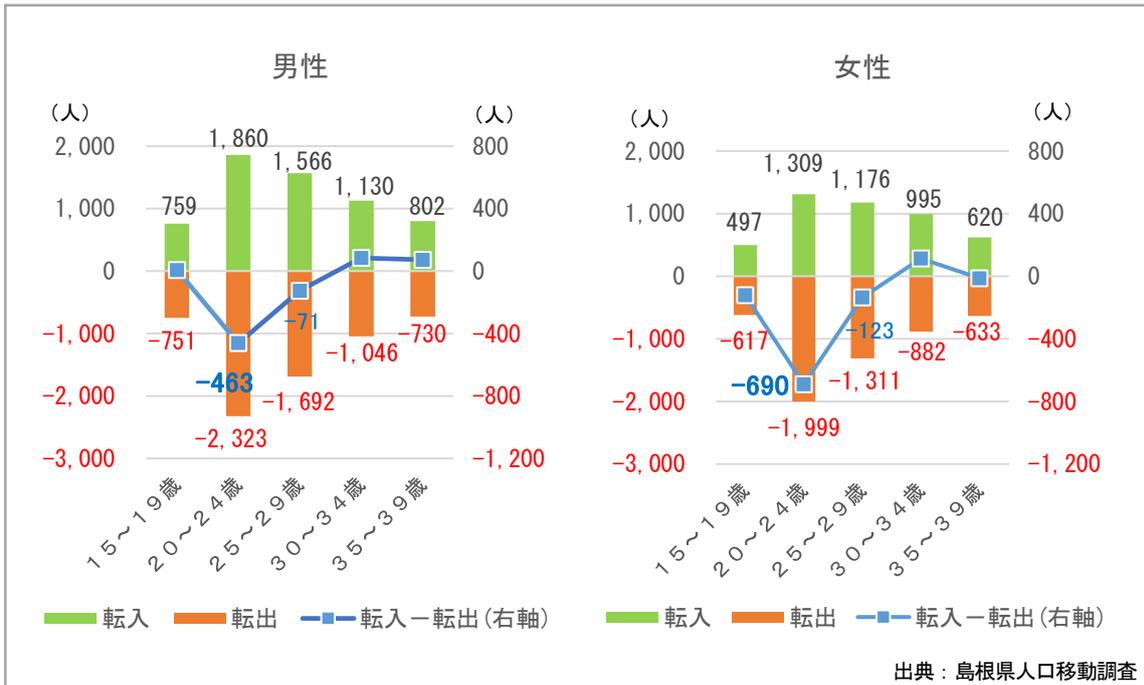
（若者の流出）

こうした社会増に寄与する様々な動きがある反面、若者の県外への流出は依然として続いています。平成 27 年 10 月から令和元年 9 月末までの 20 代前半の若者について県外転入出差引をみると、4年間で男性 463 人の減、女性 690 人の減となっており、女性の方

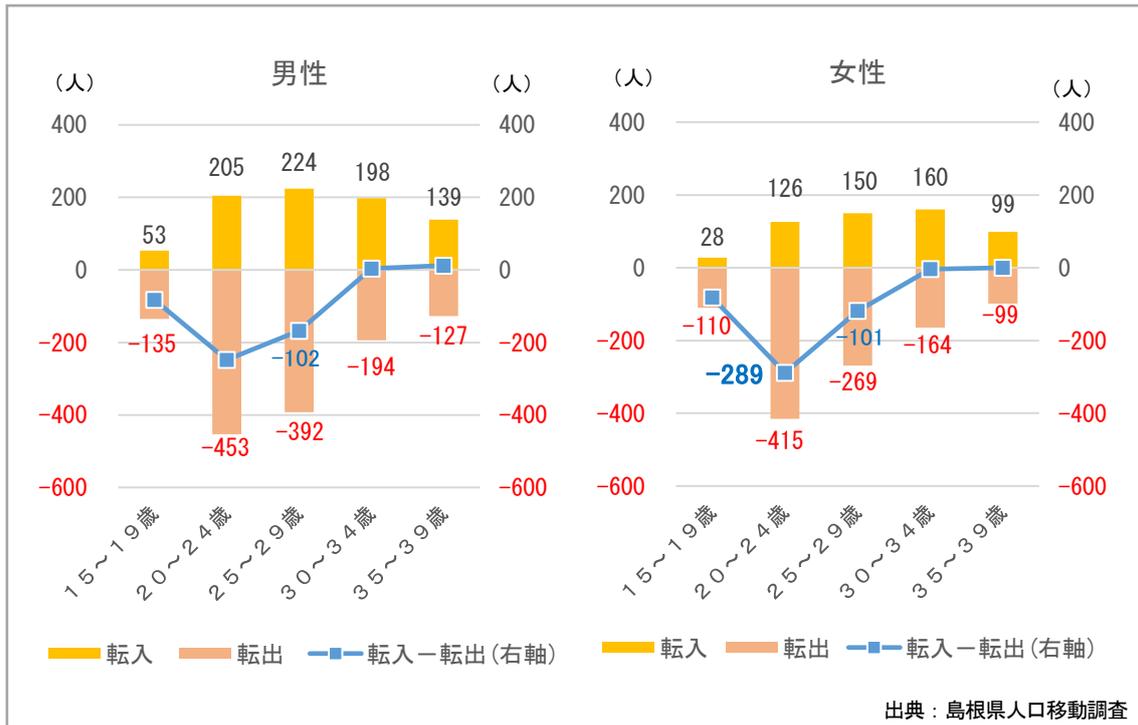
が男性よりも社会減傾向にあります。【図 15】

また若者の東京一極集中が問題視されていますが、同期間の20代前半の転入出差引を東京圏（埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県）に限定してみると、男性248人の減、女性289人の減となり、本市においても若者が東京圏に流出している傾向があり、ここでも女性の社会減が男性を上回っています。【図 16】

【図 15 松江市 対全国 年代別転入転出者数（15～39歳）】H27.10-R1.9の合計



【図 16 松江市 対東京圏 年代別転入転出者数（15～39歳）】H27.10-R1.9の合計

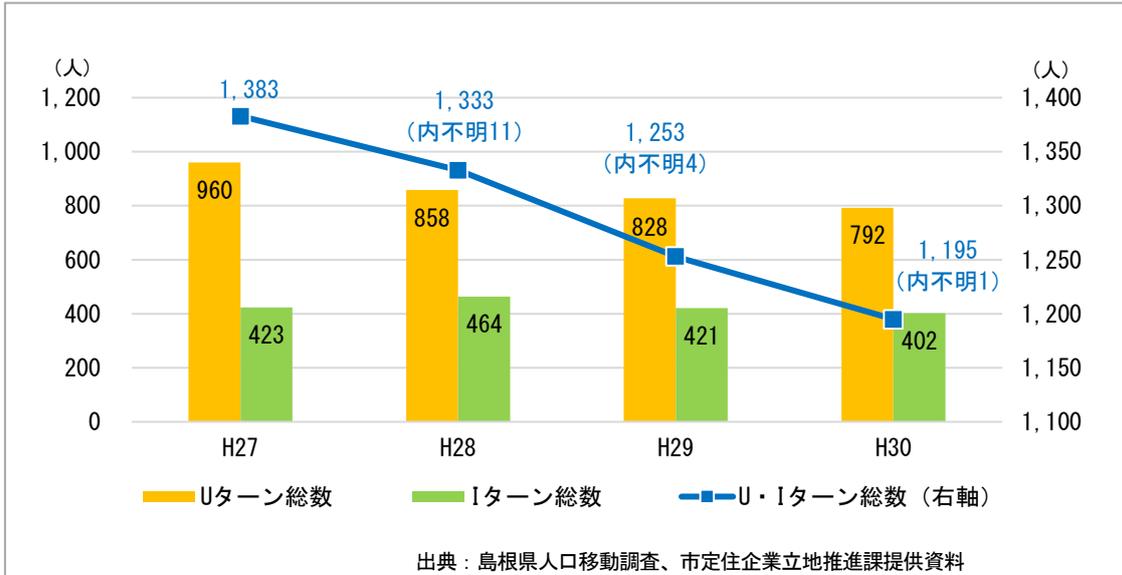


(U・Iターンの傾向)

本市へのU・Iターン実績をみると、平成27年度の1年間で1,383人であったU・Iターン者は平成30年度には1,195人となり、近年は減少傾向にあります。【図17】

主な理由としては、人手不足から都会地の企業の採用活動が活発になっていることなどが影響していると考えられます。

【図17 松江市 U・Iターン実績 (H27~H30)】 各年4~3月

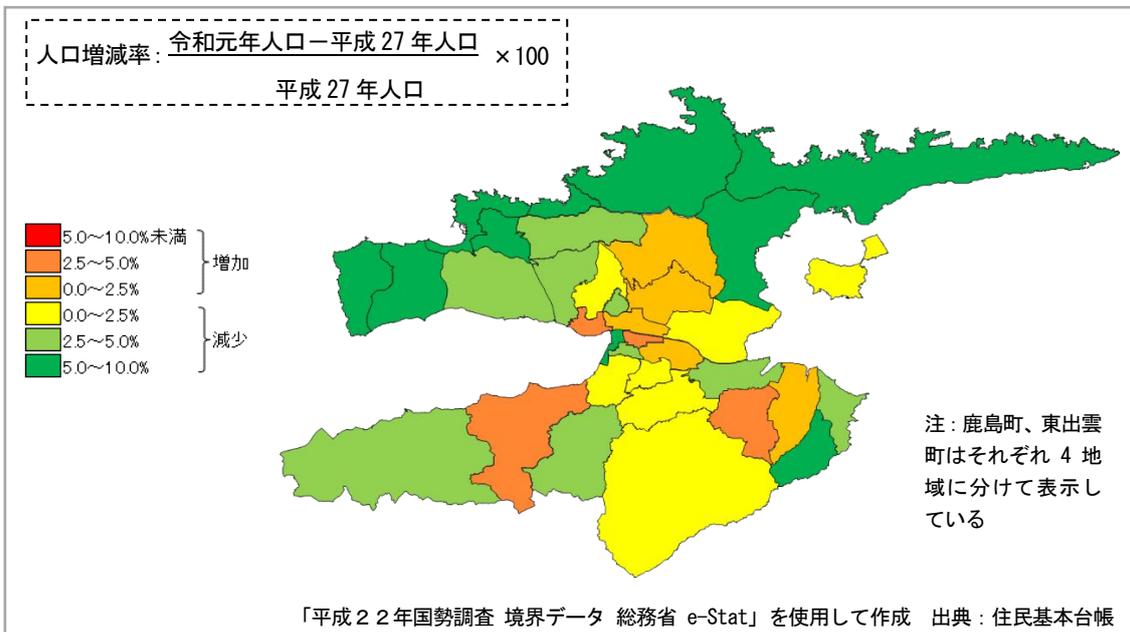


(地域によって異なる人口増減)

市内の地域別に人口動態をみると、人口の増減には地域差がみられます。

住民基本台帳で平成27年10月1日と令和元年10月1日の人口を比較すると、人口が増加している地域がある反面、半島部など人口が減少している地域があります。

【図18 地域別人口の増減率マップ】



③本市の産業と地域経済分析

本市における具体的な人口減少対策の参考とするため、経済・産業面について本市の特性をみていきます。

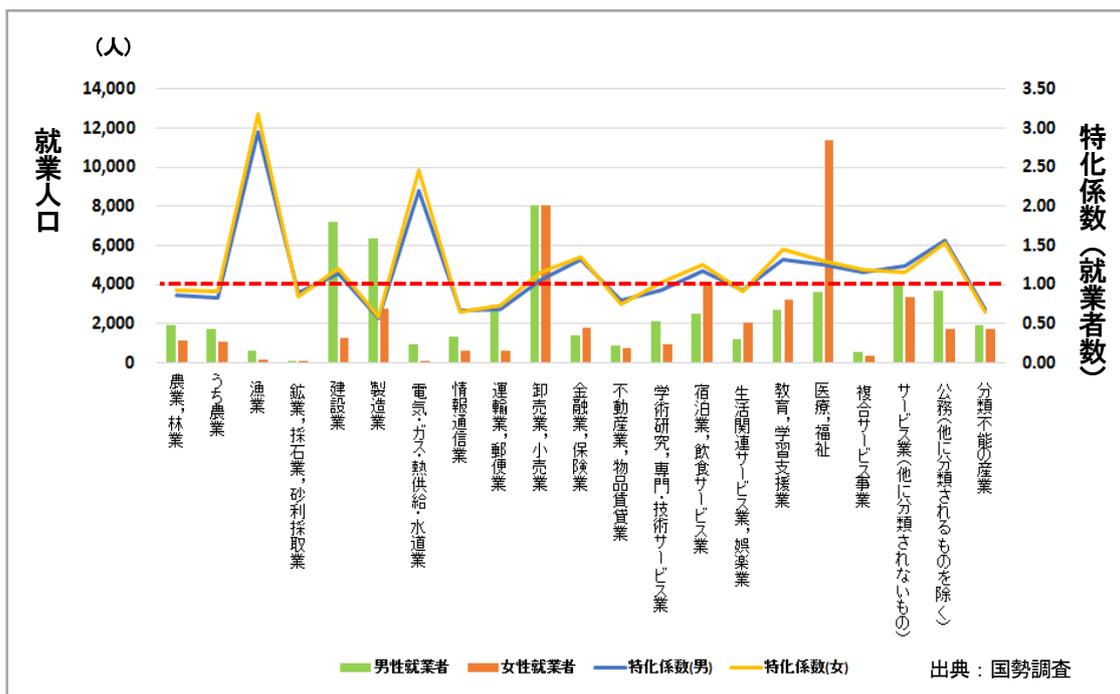
産業の状況

◇経済活動の規模を就業人口と総生産額でみると、就業人口と比べても第一次産業の総生産額が小さい一方、第三次産業は全般に人口の構成比よりも大きい傾向にあります。

◇就業者数の多い産業：卸売業・小売業（男女）、医療・福祉（女性）、建設業（男性）、製造業（男性）です。

◇就業者数にみる本市の特徴的な産業（特化係数⁵の高い産業）：就業者数の多い医療・福祉と建設業については特化係数も高くなっています。就業者数は少ないものの、漁業、電気・ガス・熱供給・水道業、金融業・保険業、教育・学習支援業、公務は比較的特化係数が高くなっています。特に漁業は就業者数がかなり少ないものの、特化係数は2.5を超えています。

【図 19 松江市 男女別 15 歳以上就業人口（平成 27 年）】



5 特化係数：付加価値額、労働生産性、従業者数について、全国平均を基準(=1)として、地域のある産業が、全国と比べてどれだけ特化しているかを見る係数。特化係数が1よりも大きな産業は、全国傾向よりも構成比が大きくなっており、特徴的な産業と言えます。特化係数=松江市の構成比/全国平均の構成

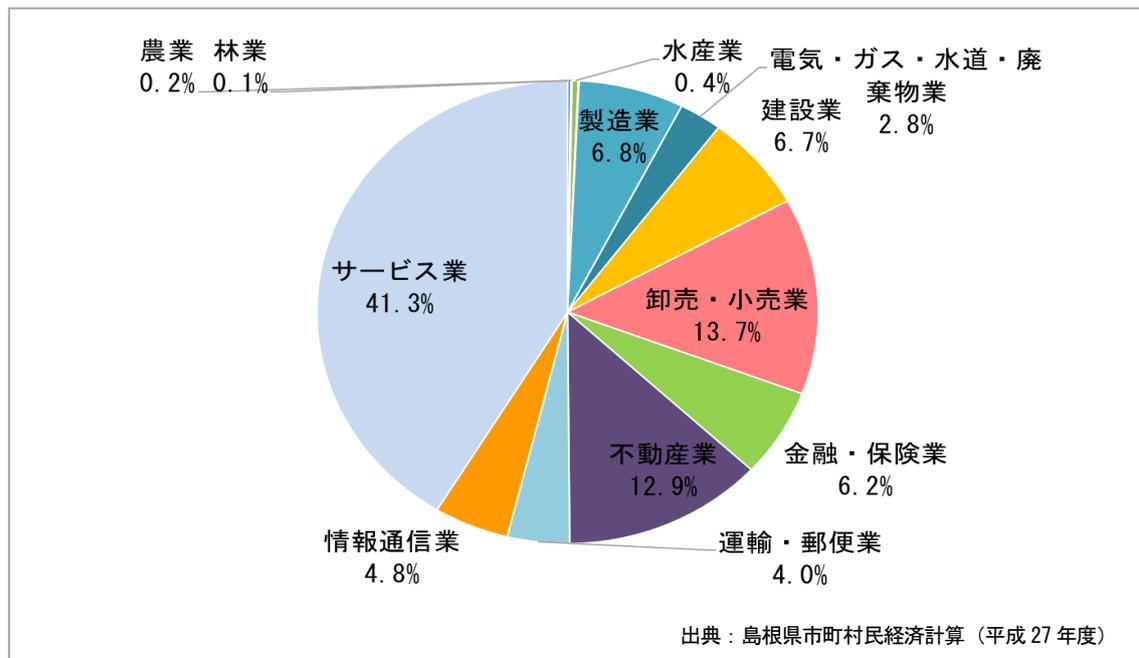
松江市 男女別 15 歳以上就業人口・構成比

単位：人、%

	合 計		男		女	
	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比
総数	99,987	100	54,009	100	45,978	100
A 農業, 林業	3,015	3.0	1,891	3.5	1,124	2.4
うち農業	2,834	2.8	1,751	3.2	1,083	2.4
B 漁業	769	0.8	604	1.1	165	0.4
C 鉱業, 採石業, 砂利採取業	34	0.0	26	0.1	8	0.0
D 建設業	8,456	8.5	7,204	13.3	1,252	2.7
E 製造業	9,129	9.1	6,344	11.8	2,785	6.1
F 電気・ガス・熱供給・水道業	1,058	1.1	970	1.8	88	0.2
G 情報通信業	1,926	1.9	1,320	2.4	606	1.3
H 運輸業, 郵便業	3,556	3.5	2,933	5.4	623	1.4
I 卸売業, 小売業	16,120	16.1	8,071	14.9	8,049	17.5
J 金融業, 保険業	3,198	3.2	1,406	2.6	1,792	3.9
K 不動産業, 物品賃貸業	1,615	1.6	878	1.6	737	1.6
L 学術研究, 専門・技術サービス業	3,048	3.0	2,100	3.9	948	2.1
M 宿泊業, 飲食サービス業	6,469	6.5	2,505	4.6	3,964	8.6
N 生活関連サービス業, 娯楽業	3,263	3.3	1,225	2.3	2,038	4.4
O 教育, 学習支援業	5,955	6.0	2,726	5.1	3,229	7.0
P 医療, 福祉	14,956	15.0	3,610	6.7	11,346	24.7
Q 複合サービス事業	952	0.9	565	1.1	387	0.8
R サービス業(他に分類されないもの)	7,458	7.5	4,075	7.5	3,383	7.4
S 公務(他に分類されるものを除く)	5,375	5.4	3,660	6.8	1,715	3.7
T 分類不能の産業	3,635	3.6	1,896	3.5	1,739	3.8

出典：平成 27 年国勢調査

【図 20 松江市 平成 27 年度 経済活動別市町村内総生産】 総額 7,422 億円



地域経済分析

移住・定住対策において雇用は重要な要素です。雇用の確保には、所得の創出が不可欠であり、得意な産業で外貨を稼ぎ、その所得を域内で循環させ、地域住民に分配する地域経済の好循環を構築することが必要です。そのために、松江市産業連関表や地域経済分析システムRESAS（リーサス）を用い、地域経済循環のメカニズムと市の産業特性を分析し、産業振興施策に取り組みます。

(地域経済の構造と地域間取引)

◇平成26年（2014年）松江市産業連関表から見た地域経済構造は、市内で生み出された粗付加価値額7,752億円に対して、市内で必要とされる需要額（消費支出、資本形成、在庫純増の合計）は、8,618億円であり、866億円の需要超過が生じています。

◇地域をまたいだ取引（域際収支）は、移輸出計が4,431億円、移輸入計が5,297億円となっており、866億円の移輸入超過となっています。産業部門別では、情報通信（564億円）、金融・保険（237億円）、生産用機械（222億円）の移輸出超過が大きく、これらは、外貨を稼ぐ産業と言えます。一方、飲食料品（397億円）、情報・通信機器（390億円）、石油・石炭製品（294億円）の移輸入超過が大きく、地域の所得が域外に流出している産業です。

◇RESASの地域経済循環図によると、支出面において民間企業が他地域へ設備投資することによる所得の流出や、地域外との取引において移輸入超過による所得の流出が起こっています。そのため、生産面への所得の還流が小さくなり、生産の拡大につながっていない状況です。

(所得を創出する産業)

◇市内生産額及び粗付加価値額の大きい産業部門を見ると、市内生産額では医療・福祉（1,300億円）、情報通信（1,212億円）、不動産（1,199億円）の順となり、粗付加価値額では不動産（1,052億円）、公務（837億円）、医療・福祉（821億円）の順となっています。

◇人口一人当たりの所得は、287万円で、全国（307万円）の94%の水準となっています。（平成27年度）

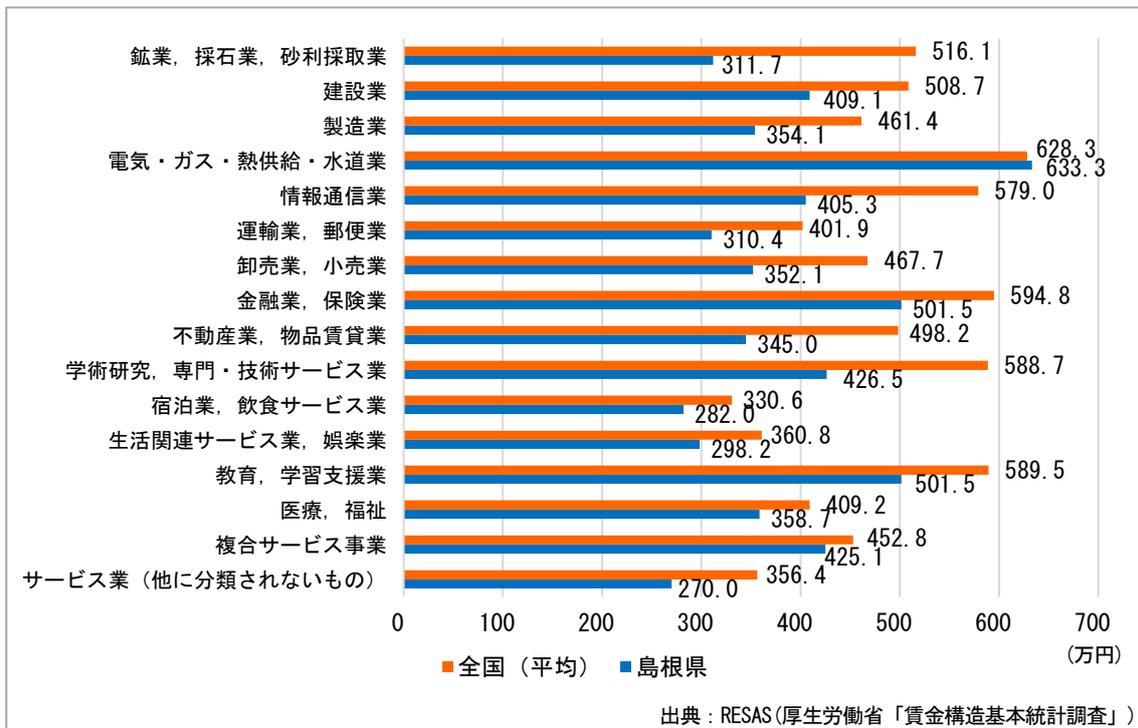
◇男性よりも社会減傾向にある女性の雇用確保のため、商業、専門サービス、生活サービス・娯楽、教育、情報サービス等の多様なサービス分野で女性にとって魅力ある就業機会を創出するとともに、ワーク・ライフ・バランスの実現や仕事と子育ての両立を推進する必要があります。

都会地との賃金格差

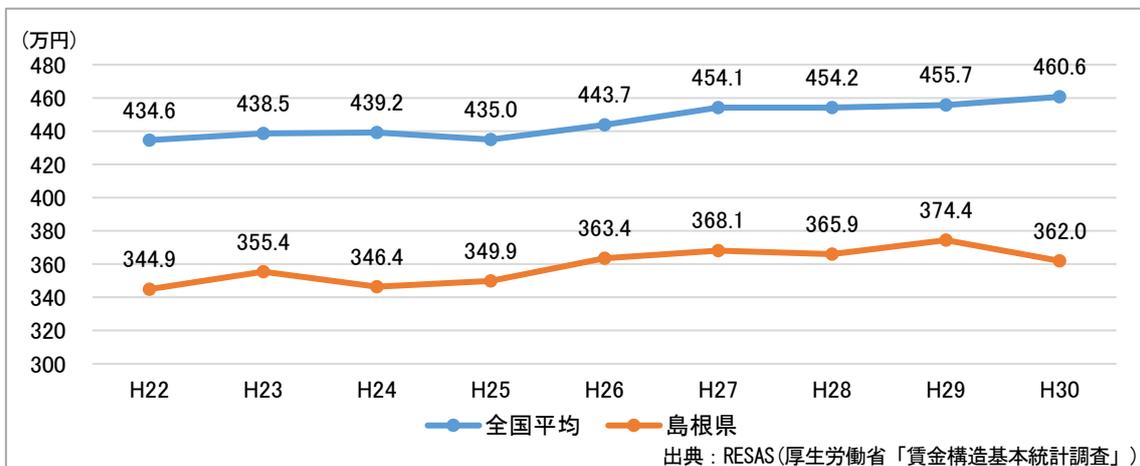
都会を中心に若者が流出する原因の一つに、都会と地方の賃金の差があるといわれています。島根県の一人当たりの賃金について、RESAS を用いて産業ごとに全国と比較してみると、電気・ガス・熱供給・水道業を除く他の産業の賃金は全国平均以下となっています。【図 21、22】

近年、本市の雇用情勢は人手不足を背景にした求人倍率の上昇にみられるとおり、総じて良い状態にあります。しかし、都会においても雇用情勢は総じて好調であり、働きたい職種で比較した場合、賃金の条件がより良い都会に流出していると考えられます。

【図 21 H30 島根県・全国平均一人当たり賃金（産業間比較）】



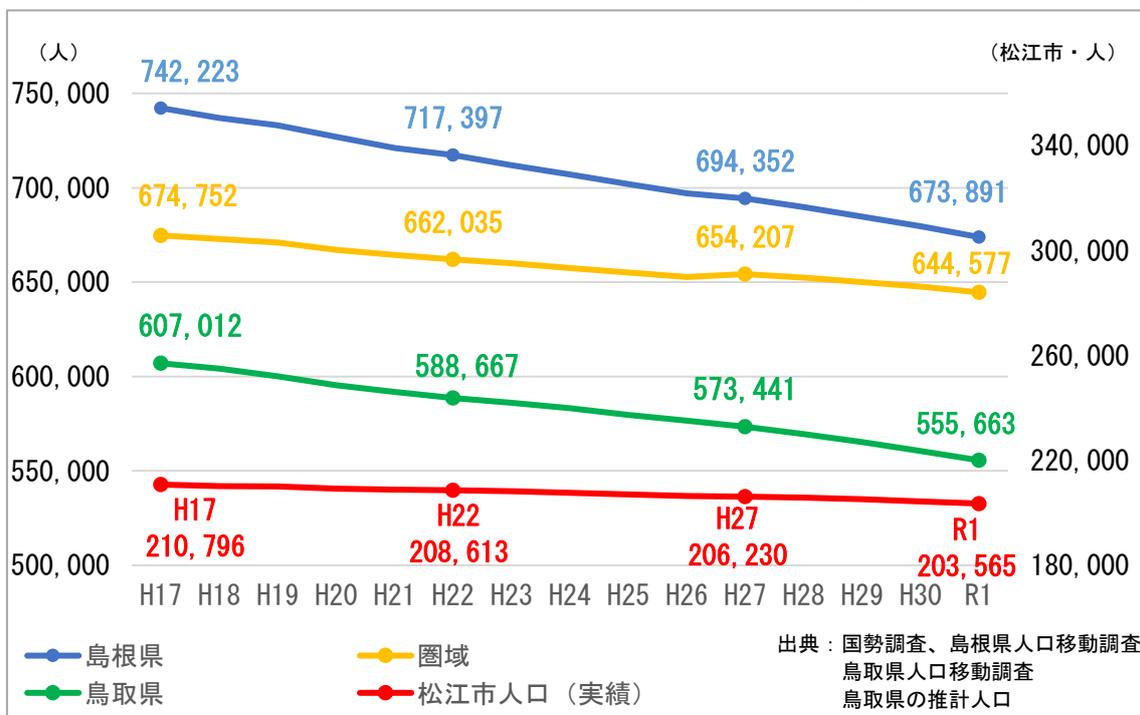
【図 22 島根県・全国平均一人当たり賃金（地域間比較）】



(3) 圏域人口60万人維持への取組 ～中海・宍道湖・大山圏域～

松江市は出雲市、安来市、米子市、境港市、大山圏域の町村（日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町）とともに中海・宍道湖・大山圏域市長会に参加しています。圏域の人口は、令和元年10月1日現在で約64万5千人であり、日本海側においては新潟都市圏域、金沢都市圏域に次いで3番目に人口の多い圏域といえます。圏域人口の推移を島根県、鳥取県と比較すると、長期的に減少傾向であることは変わらないものの、減少スピードは緩やかです。この圏域は、主に進学や就職先として両県内から人を集めており、東京一極集中が問題となるなか、圏域全体で人口のダム効果を果たしているといえることができます。

【図23 人口の推移（松江市、中海・宍道湖・大山圏域、島根県、鳥取県）】

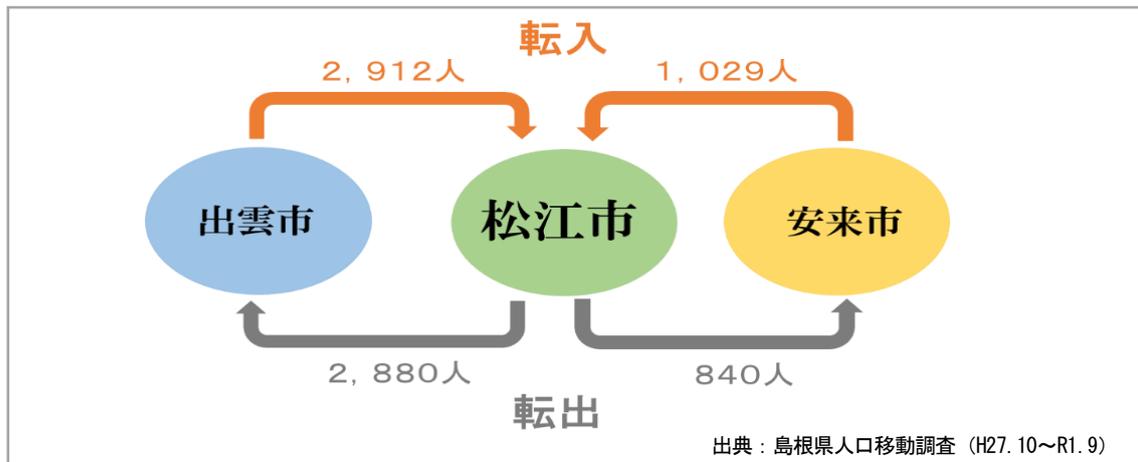


そして、この圏域には地理的・歴史的なつながりがあり、自然、歴史、文化はもちろんのこと、二つの空港や高速道路網、医療機関などの都市機能が充実しています。そして、私たちは普段から市域や県境を意識せず、圏域を一つの生活圏として暮らしています。

ここでは圏域内の人の動きについて、出雲市、安来市との転入転出実績を「島根県人口移動調査」の結果から確認します。【図24】

また、RESASを用いて、圏域内の社会動態、通勤者・通学者の流れについてもみていきます。

【図 24 松江市、出雲市、安来市の転入転出の実績】



【松江市 転入数・転出数の上位地域（平成 30 年）】

<転入数> (人)

1	出雲市	730
2	雲南市	279
3	浜田市	272
4	鳥取県米子市	265
5	安来市	260
6	隠岐の島町	160
7	益田市	144
8	鳥取県鳥取市	135
9	大田市	116
10	広島県広島市安佐南区	107
	：	

<転出数> (人)

1	出雲市	729
2	鳥取県米子市	287
3	浜田市	223
4	安来市	209
5	鳥取県鳥取市	146
6	雲南市	145
7	隠岐の島町	140
8	益田市	135
9	広島県広島市安佐南区	119
10	岡山県岡山市北区	94
	：	

出典：RESAS（総務省「住民基本台帳人口移動報告」）

【松江市 通勤通学の状況（平成 27 年）】

【他地域から松江市へ通勤通学する人】

18,563 人

(人)

1	出雲市	7050
2	安来市	3316
3	雲南市	3048
4	鳥取県米子市	1951
5	鳥取県境港市	1054
6	奥出雲町	245
7	広島県広島市	148
8	鳥取県南部町	127
9	大田市	115
10	鳥取県大山町市	77
	：	

【松江市から他地域へ通勤通学する人】

11,151 人

(人)

1	出雲市	3887
2	安来市	2072
3	鳥取県米子市	1590
4	鳥取県境港市	1187
5	雲南市	1118
6	広島県広島市	125
7	奥出雲町	123
8	浜田市	95
9	鳥取県鳥取市	75
10	大田市	65
	：	

出典：RESAS（総務省「国勢調査」）

「鳥根県人口移動調査」によれば、平成 27 年 10 月からの 4 年間では、出雲市から松江市へ 2,912 人転入し、松江市からは出雲市へ 2,880 人転出、安来市からは 1,029 人が転入し、安来市へ 840 人が転出しています。【図 24】 また RESAS で平成 30 年の松江市の転入転出数内訳をみると、全国を含めて出雲市が転入転出ともに 1 位、米子市が転入 4 位、転出 2 位、安来市が転入 5 位、転出 4 位となり、圏域を中心に人が移動している様子が分かります。また、通勤者・通学者の動きをみても、松江市への流入・流出では圏域内の自治体が上位を占めるなど、同じ生活圈・経済圏として密接な関係にあることが分かります。

この圏域には日本海側を代表する圏域として、さらに発展する潜在力があります。圏域自治体がそれぞれの特長、強みを生かしつつ魅力あるまちづくりを行うことで、この圏域に暮らし、学び働きたいと思う人が増えるのではないのでしょうか。

市長会では「中海・宍道湖・大山圏域市長会 地方版総合戦略」を策定しており、基本目標として圏域人口 60 万人の維持を掲げています。圏域人口を維持することは松江市の人口を維持することにもつながります。松江市は平成 30 年 4 月に中核市に移行し、また同年 12 月には地域の経済や住民生活を支える拠点となる中枢中核都市に選定されました。圏域をけん引する都市として、圏域人口 60 万人の維持に向け、他市町村と協力して取り組んでいきたいと考えています。

(4) 人口減少が地域に与える影響

人口が減少し続け、少子高齢化が進むと地域社会にどのような影響を与えるのか、いくつか例をあげてみます。

- ◇高齢者が増えると、医療・福祉分野の需要は増えますが、少子化等による人口減少により担う人が少なくなります。
- ◇少子高齢化が進行するにつれ都市部の労働力不足に拍車がかかり、若者が労働力として地方から都市部へ流出してしまうことも考えられます。
- ◇少子化が進み生産年齢人口が縮小していく中、多くの産業で労働力不足が心配されます。外国人労働者の採用により労働力不足を解消したり、AIやロボット、次世代通信技術5G等の普及により仕事の効率化が図れるという予測もありますが、そのような社会の構築にはもう少し時間がかかると思われます。
- ◇地域の住民が利用する小規模な商店が減少したり、利用者が減った地域交通機関が廃止されるなどの影響が懸念されます。
- ◇地域の開業医など小規模な医療機関のなかには、地域の人口減少が進むと維持できなくなるところも出てくるのが予測されます。
- ◇自治会活動や公民館活動など地域住民の自主的な活動が、少子高齢化や参加者不足により縮小したり、維持できなくなることも考えられます。
- ◇子どもの数が減少すると、学校数・学級数にも影響が出るのが予想されます。

急速な人口減少が地域社会に与える影響を極力少なくしていかなければなりません。そのためには、人口減少の速度を緩やかにしつつ、将来的に年齢構成のバランスがとれた社会を作っていく必要があります。

2. 人口の将来推計

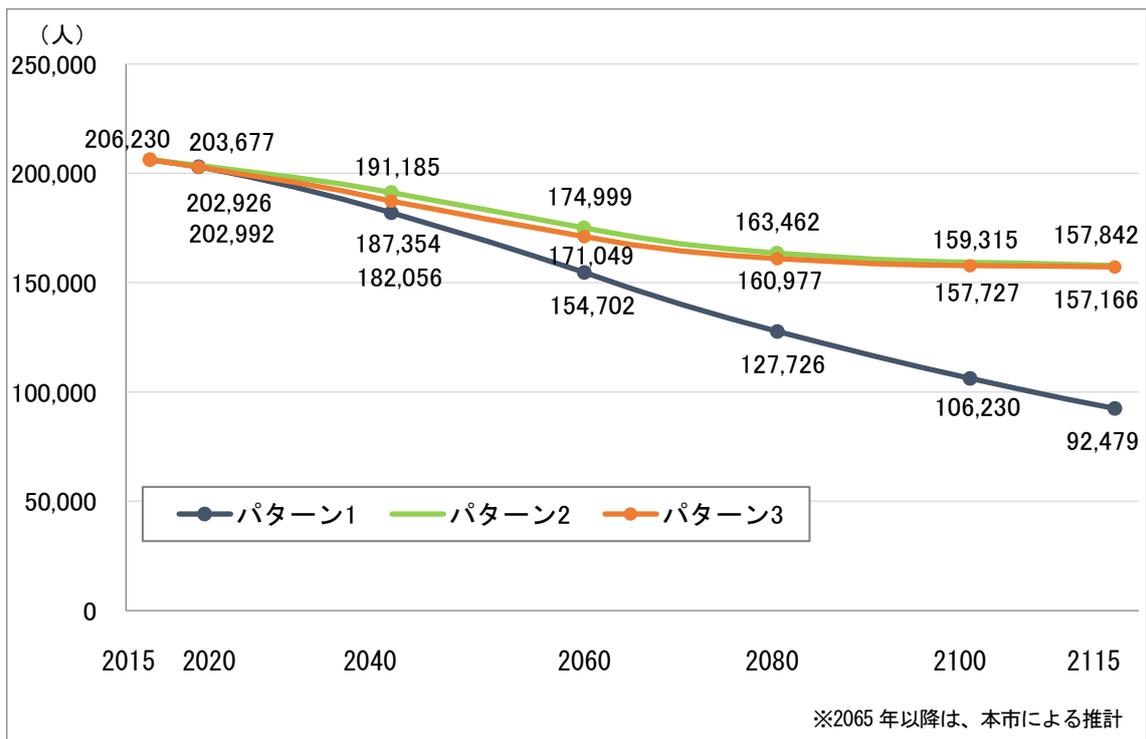
社人研や内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局（以下、まち・ひと・しごと創生本部という）から示された新たな人口推計を参照しつつ、将来の本市の人口推計について考察していきます。

社人研が平成 22 年国勢調査から平成 27 年国勢調査間の傾向をもとに推計した新推計（2045 年までの推計。以降 2065 年までは社人研推計に準拠したまち・ひと・しごと創生本部による推計）を、平成 17 年国勢調査から平成 22 年国勢調査間の傾向をもとにした旧推計と比べると、松江市の 2060 年の人口は旧推計の 131,330 人から 23,372 人上方修正され、154,702 人となりました。

（1）人口の将来推計

国が示した 3 つの推計（社人研推計に準拠）を示します。

【国が示した松江市の将来推計人口】



各推計パターンと推計の結果は以下のとおりとなりました。

◇パターン1：社人研推計準拠の推計。

合計特殊出生率は1.60～1.62程度で推移。社会移動は徐々に収束する。
自然動態、社会動態は2010年から2015年の傾向のまま推移
(推計の結果)

2060年の総人口は15.5万人弱まで減少(減少率約25%)
出生数は減少し、2060年時点で年間約1,090人
総人口、出生数ともに2100年代に入っても減少を続ける

◇パターン2：パターン1(自然動態、社会動態が2010年から2015年の傾向のまま推移)を基本に合計特殊出生率が2.10まで上昇する推計
(推計の結果)

2060年の総人口は17.5万人弱まで減少(減少率約15%)
出生数は、2060年時点で年間約1,730人
総人口、出生数ともに2100年代に入っても減少を続ける

◇パターン3：パターン1を基本に、合計特殊出生率が2.10まで上昇し、社会移動が均衡(毎月の社会移動が±0人)となる推計
(推計の結果)

2060年の総人口は17.1万人まで減少(減少率約17%)
出生数は、2060年時点で年間約1,780人
総人口、出生数ともに2100年代に入っても減少を続ける

	出生率		出生数(人)	自然増減(人)	社会増減(人)		人口(人)
	2030年	2060年	2060年	2060年	2060年	年平均	2060年
パターン1	1.62	1.62	1,094	▲1,690	245	263	154,702
パターン2	2.10	2.10	1,730	▲1,059	246	265	174,999
パターン3	2.10	2.10	1,780	▲786	±0	±0	171,049

なお、3パターンにおける2060年の年齢区分の人口、構成比率は次のとおりとなりました。

	14歳未満		15歳～64歳		65歳以上		65歳以上のうち 75歳以上	
	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)
パターン1	17,496	11.3	79,072	51.1	58,134	37.6	39,134	67.3
パターン2	26,401	15.1	90,464	51.7	58,134	33.2	39,134	67.3
パターン3	26,809	15.7	91,366	53.4	52,874	30.9	35,507	67.2

(2) 人口推計についての考察

3 パターンの推計について考察します。

パターン1は、出生率と出生数が共に現在の傾向のまま推移する推計であるため、将来的に人口の減少幅が大きくなり、2060年時点の人口は154,702人となります。また、2060年における世代のバランスについても、高齢者が多く若者が少なくなってしまう。

パターン2は、2060年時点の人口は174,999人となり、本市が前回ビジョンで目標とした18万人に最も近い推計となります。2060年における世代のバランスは、出生数が増加するため若者人口が増え、ある程度世代の均衡がとれたものとなります。

パターン3については、2060年時点の人口は171,049人となり、目標である18万人にやや届きませんが、出生数の増加には一定の効果があります。また2060年における世代のバランスは、パターン2と同じく若者人口が増え、ある程度世代の均衡がとれたものとなります。しかし、社会動態が均衡し続けるという条件は、若者を中心に積極的な社会増をめざす本市の方向とは一致しません。

以上から、新しい人口ビジョンについては、国が示すパターン2を参考としながら、本市独自の設定を盛り込みつつ、組み立てていくのが適当であると考えます。

(3) 新人口ビジョンの考え方

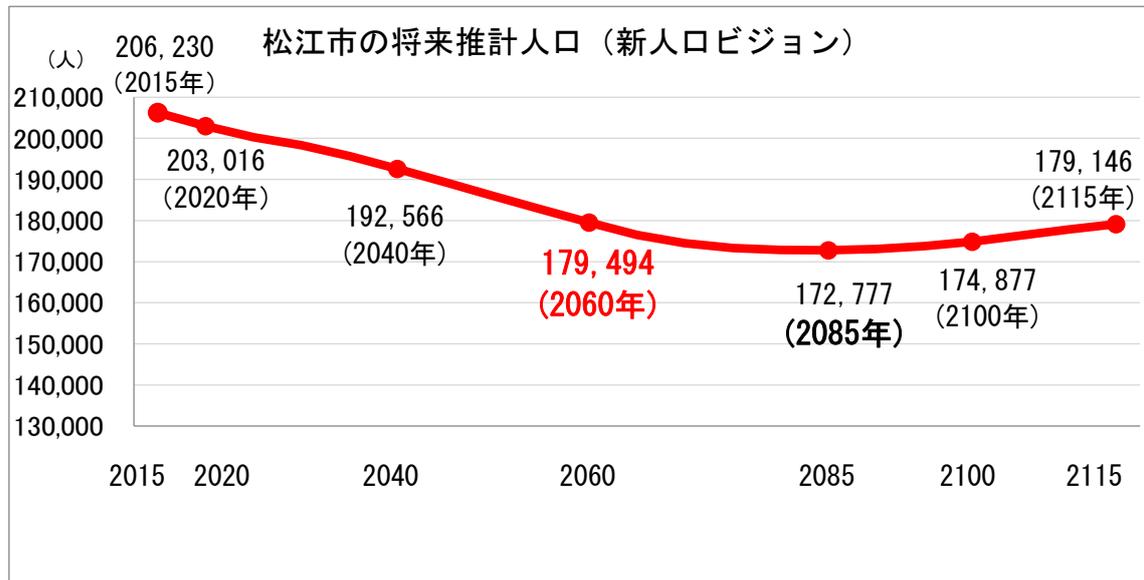
まず自然動態について想定します。これまでの本市の合計特殊出生率は、おおむね国より0.15程度上回って推移していることから、前回ビジョンではこのアドバンテージ分0.15を人口置換水準2.07に加えた2.22を将来の合計特殊出生率として設定しました。

新しい人口ビジョンにおいても、アドバンテージ分を見込んで推計する方法を踏襲し、人口置換水準2.07に0.15を加えた2.22を、引き続き将来の合計特殊出生率として設定します。

次に社会動態ですが、社人研の新推計に準拠すると、本市の社会動態は旧推計の社会減傾向から転じ、年間約260人増で推移するとされており、前回ビジョンの目標であった社会増年間270人を後押しする推計となりました。しかし、この新推計においても20代の若者は社会減傾向で推移するとされており、また実績においても、特に20代の若者の都市部等への転出には歯止めがかかっていません。そこで新しい人口ビジョンをもとに、新総合戦略では、20代をはじめとした若者の流出抑制と流入促進に、これまで以上に取り組んでいきたいと考えています。

新しい人口ビジョンによる推計や年齢構成などは次のとおりです。

【松江市の将来推計人口（新人口ビジョン）】

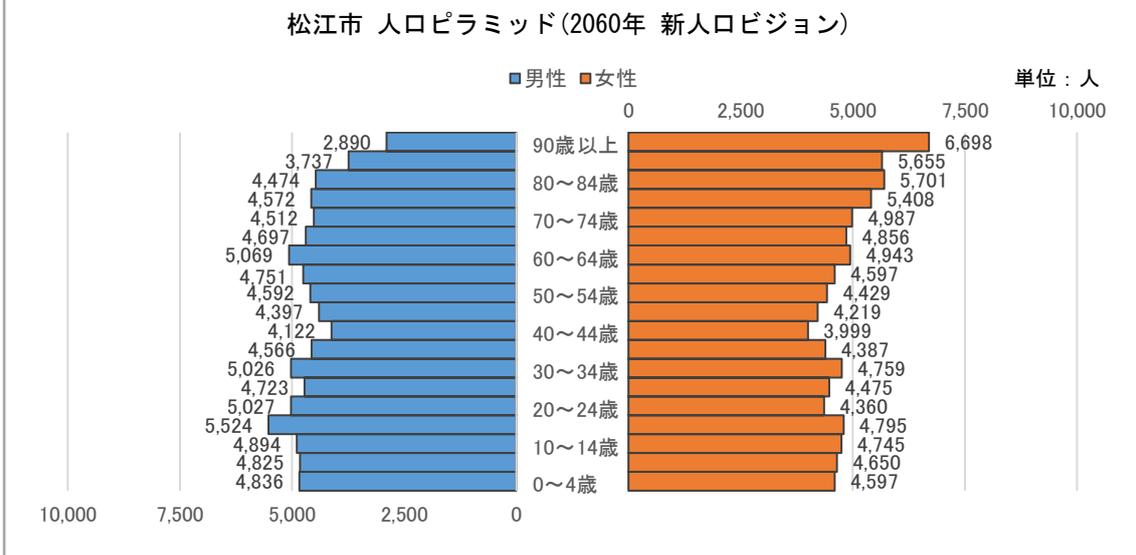
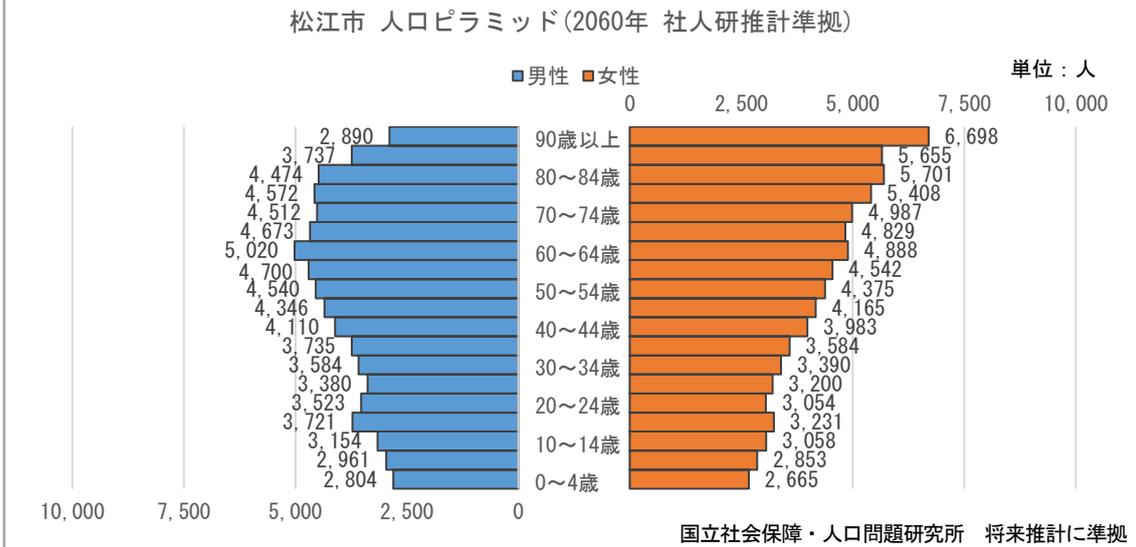
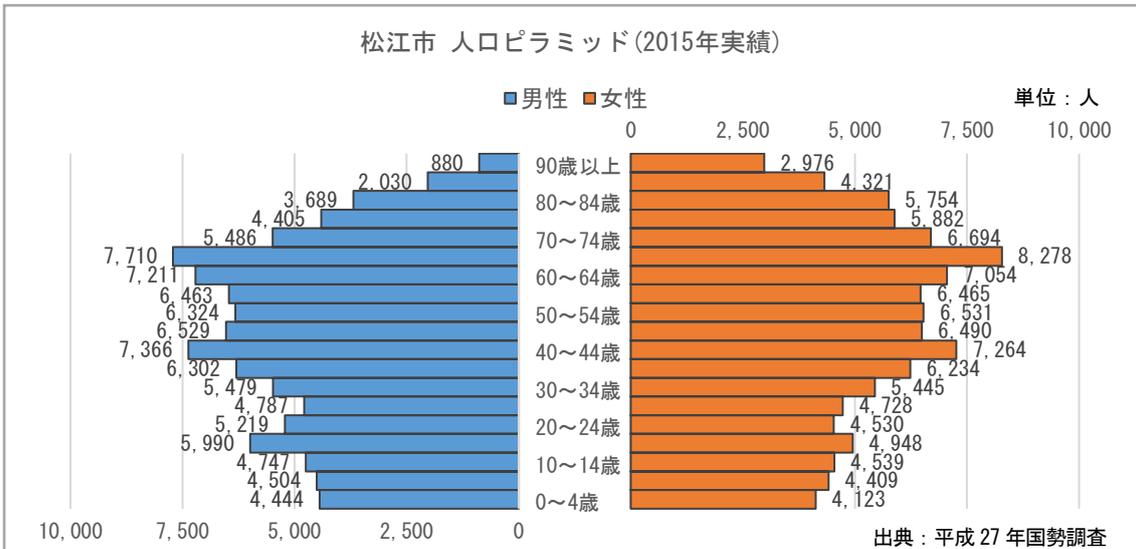


	出生率		出生数(人)	自然増減(人)	社会増減(人)		人口(人)
	2030年	2060年	2060年	2060年	2060年	年平均	2060年
新人口ビジョン	2.22	2.22	1,887	▲904	267	287	179,494

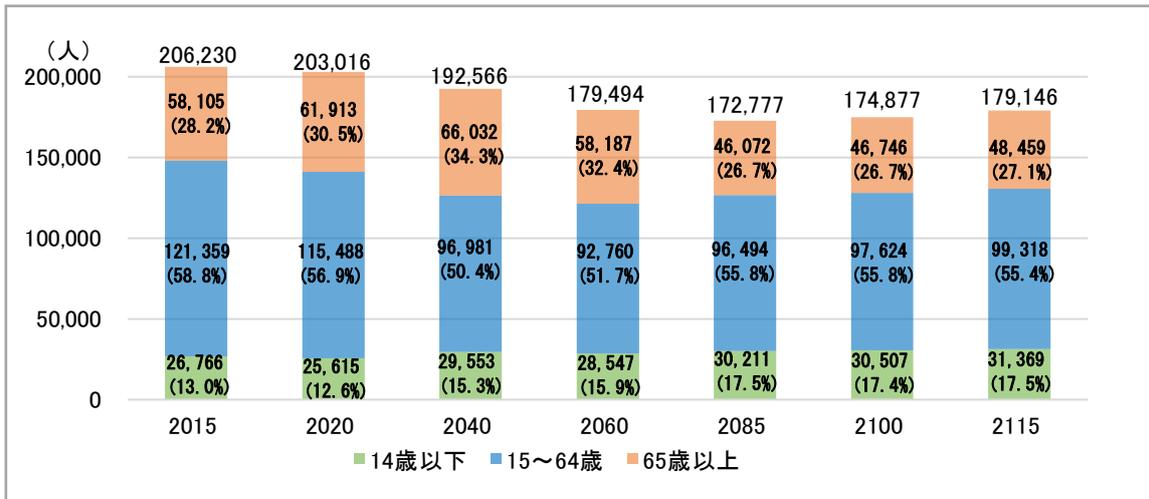
なお、新しい推計における2060年の年齢区分の人口、構成比率は次のとおりとなりました。

	14歳未満		15歳～64歳		65歳以上		65歳以上のうち75歳以上	
	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)
新人口ビジョン	28,548	15.9	92,760	51.7	58,186	32.4	39,135	67.3

【人口ピラミッドの変化】



【松江市 年代3区分別人口の将来展望】



75歳以上人口の推移をみると、例えば現在20代から50代が多い都会地においては、今後はこの75歳以上の世代は増え続けると予測されていますが、島根県全体では、かつて都会地に流出した人が多いために既に75歳以上人口はピークを迎えつつあり、今後は減っていくと予測されています。本市についてみると、現在40代から60代が比較的多いことから、今後30年間にわたり75歳以上人口は増え続け、団塊ジュニア世代が75歳以上になっていく2050年前後がピークになると推計しています。

	2015	2020	2040	2050	2060	2085	2100	2115
65歳以上人口	58,105	61,913	66,032	63,919	58,187	46,072	46,746	48,459
75歳以上人口	29,937	32,850	39,375	41,007	39,135	29,827	27,444	29,852
65歳以上に占める割合	51.5%	53.1%	60.2%	64.2%	67.3%	64.7%	58.7%	61.6%

新しい人口ビジョンの場合、2060年時点の人口は17.9万人、年間出生数は1,900人程度、2020年以降の平均年間社会増減は約180人~410人となり、比較的人口減少幅も少なくなります。2060年時点の人口ピラミッドは、世代間で若干均衡を欠いてはいるものの、若年層が極端に少なくなる逆ピラミッド型から改善し、長期的にみても2085年ごろに人口の減少傾向は止まり、その後は人口の増加が期待できます。

この新しい人口ビジョンにより、本市の総合戦略の目標は従来と変わることなく、次のとおり高い目標として掲げ、挑戦してまいります。

出生数 2000 人/年をめざす

社会増 270 人/年をめざす

2060年に総人口約18万人を確保する

第2部：松江市まち・ひと・しごと創生《第2次総合戦略》

1. 第1次総合戦略の取組と第2次総合戦略で重点的に取り組む事項

(1) 本市の人口減少の要因について

本市の総人口は、全国の推移よりも早く、平成17年の国勢調査で減少に転じ、令和元年10月1日現在の推計人口は203,565人で前年に比べて863人の減少となっています。

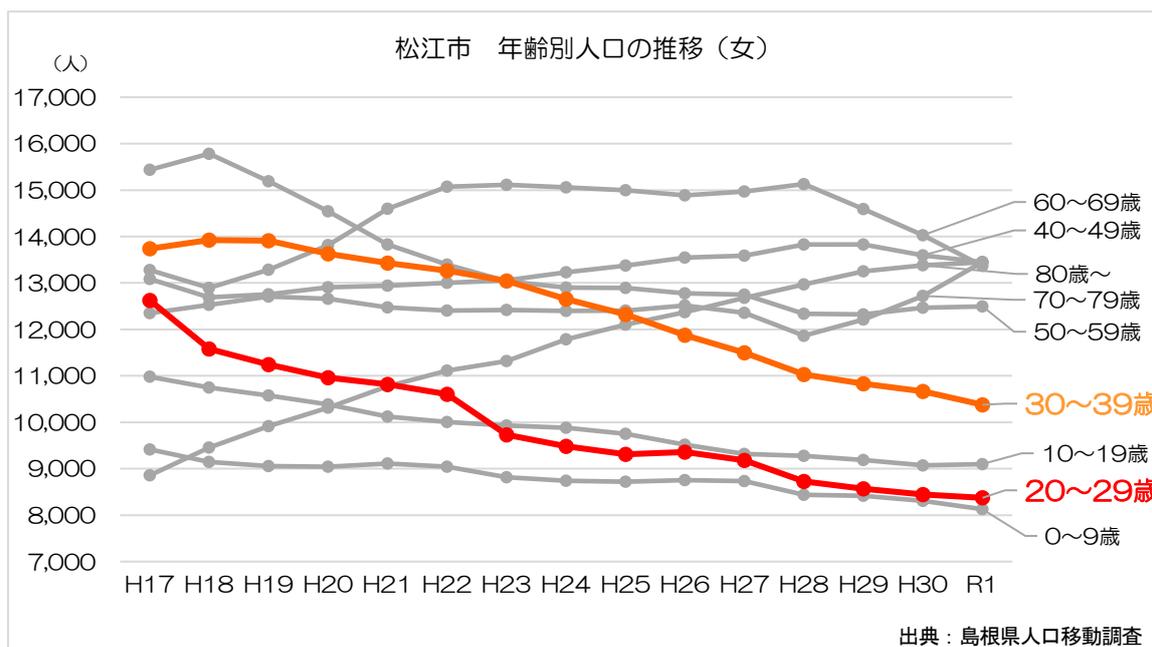
65歳以上の高齢者の総人口に占める割合（高齢化率）は29.5%で伸び続けている一方、15歳未満の年少人口割合は、13.1%と近年横ばい傾向、15歳から64歳の生産年齢人口は、57.1%で減少を続けています。

なかでも、本市における出産、子育て世代である20～39歳の女性の人口は、26,365人（平成17年）から、18,751人（令和元年）と、7,614人減少しており、他の世代に比べて急速に減少しています。少子化による影響に加え、大都市圏への若い世代の流出に歯止めがかからないことも重なり、加速度的に減少が進んだものと想定されます。そして、このことが本市の出生者数が伸び悩む要因の一つになっています。

本市における人口減少は、高齢化に伴う死亡者数の増加と出生数の減少による自然減と、若者の大都市圏などへの流出により生じる社会減が要因です。

そして、生産年齢人口の減少など、少子高齢化は、人口減少そのものだけでなく、均衡ある人口構成による持続可能な地域を形成するうえで大きな課題となります。

【図25 松江市年齢別人口の推移（女性）】



(2) 第1次総合戦略の取組

平成27年10月に策定した「松江市まち・ひと・しごと創生《人口ビジョン》《第1次総合戦略》では、国のまち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標をベースに、5つの基本目標・10の重点プロジェクトを定め、地方創生に向けて取り組んできました。

第1次総合戦略の取組評価について

第1次総合戦略は、平成27年度から令和元年度までの5か年計画である。次ページからの第1次総合戦略の取組評価は、平成30年度までの評価とし、達成率が100%以上をA（順調に推移）、99%～80%をB（概ね順調に推移）、79%～60%をC（やや遅れている）、59%以下をD（遅れている）とした。なお、KPIのうち、調査年にあたらないため平成30年の実績値を把握できない項目は評価対象外とした。〔令和元年度第2回松江市総合計画・総合戦略推進会議（令和元年9月30日開催）にて報告〕

基本目標1 地域資源を活用し、個性豊かで強靱な産業を創り上げ、安定した雇用を創出する

項目	数値目標（H27年度～R1年度）	H30年度までの実績	H30評価		
雇用創出数	581人増	530人増	A		
一次産業新規就業者数	156人増	152人増	A		
重要業績評価指標（KPI）のH30評価					
指標数	評価A	評価B	評価C	評価D	対象外
10	6	3	0	1	-

Ruby City MATSUEプロジェクトによるITのまちとしてのブランディング効果もあり、ソフト産業を中心に企業誘致、新規雇用数の創出が進んでいます。

一次産業新規就業者数について、農業では、県や農業関係者と連携し、就農初期の経営安定を図るための支援や、だんだん営農塾での農業技術指導などを通じて、担い手の確保・育成を行い、新規就農者の確保が進んでいます。

このほか、近年、境港の大型クルーズ船の寄港や、官民を挙げてインバウンドに取り組んでいることから、外国人観光客数が着実に伸びてきています。

若者にとって魅力ある雇用の場をつくるために、引き続き、地域資源を最大限活用して「もうかる産業」（しごと）を創出していくことが必要です。

基本目標2 松江の魅力に磨きを掛け、新しい人の流れをつくる

項目	数値目標 (H27年度～R1年度)	H30年度までの実績	H30評価		
Uターン者数	1,583人*	1,195人	C		
まちづくりに参加する学生の割合	80%	70% (H29)	-		
市内企業へ就職する生徒・学生数	高校生275人/年	高校生206人/年	B		
	大学生等400人/年	大学生等395人/年	B		
重要業績評価指標 (KPI) のH30評価					
指標数	評価A	評価B	評価C	評価D	対象外
7	2	3	1	1	-

*集計方法の変更により数値目標を修正。

Uターン者数は、島根県同様に年々減少傾向にあります。人手不足から都会地の企業の採用活動が活発になっていることが影響していると考えられます。若者の人口流出に歯止めがかからない要因もこうした社会情勢によるものが大きいと考えられます。

若者に魅力ある雇用の場の創出に取り組むとともに、学生が地域の産業・企業を知り、定着に繋げる取組を強化していくことが必要です。

基本目標3 まちを挙げて結婚・出産・子育てを応援し、若い世代の希望をかなえる

項目	数値目標 (H27年度～R1年度)	H30年度までの実績	H30評価		
子育て支援策の満足割合	80%	61% (H29)	-		
女性の就業率※25～44歳	80%	85.1% (H29)	-		
重要業績評価指標 (KPI) のH30評価					
指標数	評価A	評価B	評価C	評価D	対象外
5	0	0	1	1	3

本市独自の子ども医療費の負担軽減などの経済的な支援、妊娠期からの相談体制の確立など、様々な子育て支援策に取り組んできました。また、「まつえワーク・ライフ・バランス推進ネットワーク」を立ち上げるなど、全国的にも高い女性の就業率に対し、仕事と家庭の両立支援を官民連携で取り組み環境整備を進めています。

また、令和元年に企業・民間団体・行政からなる婚活支援プロジェクト推進本部を立ち上げ、それぞれの強みを生かした実効性のある事業の展開とともに、地域全体で結婚を応援する機運を盛り上げることをしています。

基本目標4 時代に合ったまちをつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

項目	数値目標 (H27年度～R1年度)	H30年度までの実績	H30評価		
住みやすさの実感割合	95%	84% (H29)	-		
健康寿命 (65歳平均自立期間)	女性21.15年 男性17.78年	女性21.10年 男性17.83年	A		
重要業績評価指標 (KPI) のH30評価					
指標数	評価A	評価B	評価C	評価D	対象外
8	1	4	1	2	-

「健康都市まつえ」の実現に向けて、家庭、地域、企業、行政が一体となった健康づくりの取組を進めています。平成30年4月に松江保健所を設置し、医療人材や介護人材の研修の質の向上など、医師会などの関係組織とのネットワークを活用した施策を展開しています。健康寿命は、男女とも延伸傾向にあります。

「要配慮者支援組織」の結成など、地域コミュニティによる「共助」の支え合いの仕組みづくりを進めています。安心安全なまちづくりのため、ハード・ソフト両面から防災・減災体制の充実を図るとともに、地域防災力向上に取り組むことが必要です。

平成30年に改定した都市マスタープランでは、交通ネットワーク軸を基本として市域全域に定住・雇用の中核を配置することで持続可能な都市をめざすこととしています。また、空き家や空き土地を活用するエリアリノベーションを進め、若者が主役となるまちづくりに取り組んでいます。

基本目標5 中海・宍道湖・大山圏域の連携強化により、日本海側の拠点をつくる

項目	数値目標 (H27年度～R1年度)	H30年度までの実績
圏域人口	65.4万人	64.8万人

圏域の特徴を活かした企業間連携やインバウンド観光の推進の取り組みにより、数値目標である「圏域での外国人宿泊客数」および「圏域内企業の商談件数」は順調に増加しており、観光、産業分野の連携が促進されています。

持続可能な圏域観光発展のため、受入れ環境整備を図り、滞在型観光のアプローチを進める必要があります。また、企業の海外商談会参加支援により、販路拡大に繋がっているところではありますが、さらに輸出の拡大に繋がる取り組みも必要です。

※中海・宍道湖・大山圏域市長会総合戦略推進委員会にて検証

(3) 第2次総合戦略で重点的に取り組む事項

『若者・女性がもっと暮らしやすいまち』をめざして

人口減少、特に生産年齢人口の減少は、人手不足による産業の事業縮小や廃業など地域経済に大きな影響を及ぼします。また「担い手不足」とも言われ、伝統産業や地域の絆、受け継がれている文化など本市の「財産」が失われるのではと懸念されています。

本市の活力を維持するため、また、大切に引き継がれてきた本市の「財産」を後世に残すために、人口減少を食い止め、持続可能なまちを作っていかなければなりません。

そのためには、本市の人口減少の要因である、若者、特に若年女性の人口のさらなる減少を和らげる取組を丁寧に、かつ着実に展開する必要があります。よって、第2次総合戦略では「若者・女性がもっと暮らしやすいまち」をめざして、分野横断的に取り組みます。

【基本的な施策の方向性】

第2次総合戦略の策定にあたり、若者のニーズを捉えるため、中学生、高校生、学生に「まちづくりのためのアンケート」を実施し、また、市内に暮らす10代から40代の女性に、仕事や生活、将来についてのインタビューを行いました。

学生アンケートでは、高等教育機関等に在学の学生のうち、市内出身者の約6割が市内への就職を希望しています。しかしながら、希望に叶う機会・場に出会えず、県外へ出ていく学生も少なくありません。松江で育った若者が抱く『期待』に応え、魅力ある雇用の創出など希望をもって活躍できるまちづくりに取り組む必要があります。

一方で、現在の地域や社会の構造に窮屈さを感じ、県外を選ぶ若者もいます。一人ひとりが個性と多様性を尊重され、家庭で、地域で、職場で、それぞれの希望がかない、生きがいを感じながら暮らすことができる社会をつくる必要があります。

引き続き、若者・女性のニーズを的確に捉え、若者・女性の意見等さらに施策に反映するための仕組みづくりに取り組みます。

(4) 新たな視点

以下の新たな5つの視点を取り入れます。また、①新しい時代の流れを力にする（Society5.0⁶の実現に向けた情報通信技術5Gをはじめとする未来技術の活用や、持続可能な開発目標SDGs⁷の理念）は、第2次総合戦略の全ての基本目標に関連するものであることから、分野横断的な取組として位置づけます。

①新しい時代の流れを力にする⇒分野横断的に取り組む事項

Society5.0の実現に向けた技術の活用

持続可能な開発目標（SDGs）の理念を踏まえ、SDGsを原動力とした地方創生の推進

②関係人口⁸の創出・拡大

将来的な移住が期待される「関係人口」の創出・拡大

③誰もが活躍できる社会の実現

女性、高齢者、障がい者、外国人など誰もが居場所と役割を持ち活躍できる地域社会を実現

④文化・スポーツによるまちづくり

⑤国土強靱化の推進

「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法（平成25年法律第95号）第13条」に基づく国土強靱化地域計画を策定し、大規模自然災害等に強い強靱な地域を作る

(5) 第2次総合戦略の位置づけと対象期間

位置づけ

- ・総合戦略は、「まち・ひと・しごと創生法」第10条に基づく「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」です。
- ・令和元年12月20日に策定された国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案します。
- ・島根県で策定の「島根創生計画」を勘案するとともに、実施段階においても島根県や近隣市町村との連携強化を図ります。
- ・松江市総合計画（2017-2021）の基本構想との整合を図ります。

対象期間

- ・総合戦略は、令和2年度から令和6年度までの5か年を対象期間とします。

6 Society5.0：サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させることにより、地域、年齢、性別、言語等による格差なく、多様なニーズ、潜在的なニーズにきめ細やかに対応したモノやサービスを提供することで経済的発展と社会課題の解決を両立し、人々が快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることのできる人間中心の社会（「科学技術イノベーション総合戦略2016」（平成28年5月24日閣議決定））。

7 SDGs：Sustainable Development Goalsの略であり、2015年9月の国連サミットで採択された2030年を期限とする、先進国を含む国際社会全体の17の開発目標。

8 関係人口：移住した「定住人口」や観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。

【図26 国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の政策体系】



出典：まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年度改訂版）及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（概要）

2. 地方創生に取り組む基本方針について

(1) 松江らしさに磨きを掛け「選ばれるまち松江」の実現をめざす

地方創生に取り組む際に、まずは、市民サービスの充実、住みやすさの向上を図っていくこと、そのうえで、本市総合計画に掲げる将来像『選ばれるまち松江』の実現をめざすことが重要であると考えています。

本市は、平成30年4月に中核市となり、さらに、同年12月には、全国で82の中核中核都市に選定されました。地方の拠点都市として今後も行政サービスの質を一層高め、地方創生の先頭に立っていかねばなりません。

そこで、総合戦略に係る本市としての基本理念を次のように掲げ、特長を伸ばすことで、松江に住みたい、住み続けたいと思っていただけるよう取組を進めていきます。

①平成の開府元年まちづくり構想「松江らしさを見つめ直す」「共創」「逆転の発想」

他にはない本市の魅力と特性である歴史・文化を磨き、国内外へ発信し、育て・活用することは、本市の地方創生の新たな切り口となります。

そして、本市ならではの「共創」の手法で、市民の皆様とともに、企画段階から一緒に考え、具体的な行動を起こしていくことで、人口減少を克服し、将来に亘って活力ある地域を創っていきます。

平成の開府元年まちづくり構想（平成 25 年 3 月策定）

構想のポイント

◇松江らしさを見つめ直す

- ・120年前に来松した小泉八雲の視点に立ち返り、松江の良さや松江らしさを再発見し、それを誇りに感じながら新たな挑戦を積み重ねることにより、新たな価値を生み出し、「松江は松江らしく」「世界にふたつとないまち」をめざそうという思いを込めて、「また八雲が歩きはじめるまち」という都市像を掲げた。

◇共創のまちづくり

- ・構想実現に向けて、共に創る『共創』のまちづくりを進めるとした。

◇逆転の発想

- ・固定化されてきた考え方や発想を「逆転（転換）」させ、逆境と思われていたものは前向きに捉え、「松江は松江らしく」未来を切り開き発展していくことをめざす。

②県境を越えた広域連携による、住みたくなる圏域づくり

本市を含めた中海・宍道湖・大山圏域は、日本海側の主要都市圏で3番目の人口規模で、産業、医療・福祉、高等教育機関などが集積し、出雲・米子の両空港、境港を有する山陰の中核的な都市圏となっています。

この高いポテンシャルを最大限生かすため、中海・宍道湖・大山圏域市長会第2期地

方版総合戦略（以下「圏域版総合戦略」という。）を策定し、県境を越えた広域連携による、「住みたくなる圏域づくり」を構成市が一体となって進めることで、日本海側の陸・海・空の重要戦略拠点を形成していきます。

中海・宍道湖・大山圏域市長会第2期地方版総合戦略

◇位置づけとねらい 県境を越えた広域連携

◇基本目標 圏域人口60万人（2060年）の維持

◇目標の実現に向けた施策

- ①国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
- ②未来をひらく交通ネットワークの形成
- ③恵まれた生活環境を生かした圏域の形成

（2）2つの挑戦・5つの基本目標・13の重点プロジェクト

人口の将来展望である「2060年に約18万人の確保」を達成するために、「2つの挑戦」を掲げ、その取組の柱となる「5つの基本目標」と、基本目標の下位に「13の重点プロジェクト」を設定します。

①2つの挑戦

【挑戦1：出生数約2,000人／年をめざす】

まちづくりのための市民アンケート（令和元年6月実施）では、「理想とする子どもの人数」は平均が2.44人であるのに対し、「現在の子どもの人数」は、平均で1.72人となりました。背景には、教育費負担や長時間労働、仕事と子育ての両立の難しさ、子育て中の孤立感や負担感など、様々な要因が絡み合っています。理想とする子どもの人数と実際の出生数の状況は、本市の人口ビジョンで示す、出生数2,000人≒合計特殊出生率2.22と現在の合計特殊出生率1.56と同じ程度の乖離が生じています。

持続可能な活力ある地域をつくるためには、一人ひとりが、個性と多様性を尊重され、家庭で、地域で、職場で、それぞれの希望がかない、能力を発揮でき、生きがいを感じることができる社会を実現することが重要です。そのなかで、子どもを産みたいと思う人の希望がかなうような環境を整え、その結果として、人口ビジョンで示す人口維持に必要な2,000人／年に達することをめざします。

【挑戦2：平均270人／年の社会増をめざす】

人口減少に歯止めを掛けるためには、出生数を高めるとともに、持続可能な人口構造をめざして社会増を図っていく必要があります。特に、若者の人口流出を食い止めるため、市内の高等教育機関との連携を強化し、市内企業へのインターンシップの支援をするなど地元定着に向けて取り組む必要があります。

県内唯一の市立高校である「松江市立女子高等学校」の魅力化を進め、高・大連携

や高・専連携の推進により、市内高等教育機関等への進学率を高めていく必要があります。また、市内高等教育機関の入試制度の見直しに併せ、市内高等学校から高等教育機関への進学者の増加を図るため、地元卒の拡充など、市内定着を図る取組が必要です。

雇用創出に向けた企業の皆様の主体的な取組、また、子どもたちへのふるさと教育・キャリア教育の促進、保護者へは地元企業の魅力を知っていただくこと、更には働く人も仕事に愛着と誇りを持っていただくことが重要となります。

さらに、関係人口の創出・拡大は、地域の活性化や将来的な移住者の拡大等が期待されることから、新たに松江ファンクラブの創設や首都圏大学との連携協力協定に基づく学生との交流を深めることで、関係人口を拡大していくことが必要です。

また、情報通信技術など Society5.0の実現に向けた技術の進展を踏まえ、未来技術を活用した地域課題の解決、産業の振興、新たな働き方の創出などに取り組むとともに、持続可能な開発目標SDGsの理念を共有します。

そして、住む人・訪れる人にとって住みやすいまちづくりを進め、本市の総合力で年間社会増270人をめざします。

②5つの基本目標・13の重点プロジェクト

地方創生を実現するために、国、地方自治体が同じ目標に向かって力を結集し、それぞれの取組の効果をより高めていくことが重要です。

そこで、第2次総合戦略の基本目標は、第1次総合戦略の枠組みを維持しつつ、国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標を勘案して設定します。

基本目標1 若い世代の希望を生み出す個性豊かで地域の特色を生かした産業と雇用を

創出する

- ①きらりと光る元気な企業群づくりプロジェクト
- ②農林水産業の成長産業化プロジェクト
- ③観光産業のバージョンアップ・インバウンド強化プロジェクト
- ④文化の多様な価値の創造と好循環プロジェクト

基本目標2 松江の魅力に磨きを掛け、新しい人の流れをつくる

- ①拠点化推進プロジェクト
- ②人材還流・松江暮らし推進プロジェクト
- ③関係人口の創出・拡大プロジェクト
- ④未来を担う次世代“人財”育成プロジェクト

基本目標3 一人ひとりが個性と多様性を尊重され、誰もが活躍できる地域社会をつくる

- ①結婚支援の充実と子育て環境日本一実現プロジェクト
- ②女性の活躍促進、誰もが活躍できる地域社会の実現プロジェクト

基本目標4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

- ①健康都市まつえ・スポーツによるまちづくりプロジェクト
- ②松江の魅力を高める環境・都市デザイン推進プロジェクト
- ③国土強靱化、安心安全なまちづくりプロジェクト

基本目標5 中海・宍道湖・大山圏域の連携強化により、日本海側の拠点をつくる

(3) 「市民運動」による取組の推進

総合戦略は、人口減少の克服という長期に亘るものであり、官民挙げて取り組むこと、とりわけ次代を担う世代が主役となって推進していくことが重要になります。

第1次総合戦略の期間では、市内29地域で取り組んでいる「地域版まちづくり総合戦略」の策定や各種団体との意見交換など、地方創生に向かって官民協働で取り組む土台ができました。さらに、第2次総合戦略の策定段階において、若者を対象に「松江市まちづくりのためのワークショップ」を開催するなど、対話を通じて今後の課題やめざす方向などを共有してきました。

本市としては、総合戦略を共創により実践していくことで、地方創生の要である「ひとづくり」、「地域・コミュニティづくり」を進め、松江市総合計画・総合戦略推進会議をはじめとした市民・企業、関係機関・団体等の皆様とともに大きな「市民運動」として取り組んでまいります。

(4) PDCAサイクルによる徹底した施策評価と見直し

総合戦略の進捗確認については、重要業績評価指標（KPI）⁹を用いて、その施策効果や目標達成の状況を検証し、改善を進めていく「PDCAサイクル¹⁰」の確立がポイントになります。

本市においては、市独自の行政マネジメントシステムを活用することにより、各事業の目的、目標、課題、方向性、実施内容、予算、決算などの情報を一元化し、事業の「見える化」を図るとともに、実効性を高めます。

計画の実効性、即応性を高めるため、施策ごとに成果を表す指標を設定し、毎年度、行政マネジメントシステムを活用したPDCAサイクルにより、徹底した施策評価と見直しを行います。

9 重要業績評価指標（KPI）：Key Performance Indicator の略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標

10 PDCAサイクル：Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスの不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法

(5) 地域経済分析 (RESASの活用など)

地域経済分析システムを活用し、定量的・客観的データによる地域の特性や課題を抽出することで、本市の実情に応じた施策を立案するとともに、その実効性を高めていきます。

(事例)

- ◇地域に所得を多く生み出している産業は、公務、医療・福祉、不動産など、第三次産業の割合が高い。
- ◇地域の雇用を支えている産業は、卸売業・小売業、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業など、第三次産業の割合が高い。

3. 基本目標を実現するための具体的な取組について

令和2年度からの5か年戦略として、「基本目標・基本的方向」を市民の皆様と共に掲げ、共有することで、官民挙げて「重点プロジェクト・具体的な事業」を推進し、5つの基本目標の実現に向けて取り組んでいきます。

基本目標1 若い世代の希望を生み出す個性豊かで地域の特色を生かした産業と雇用を創出する

【数値目標】

項目	目標値（令和6年度・5か年）
雇用創出数 ※新增設・企業誘致に伴う雇用者数	690人増 (参考) 平成26年度～平成30年度：581人
一次産業新規就業者数	45人/年 (参考) 平成27年度～平成30年度の平均：38人/年
観光消費額	75,000百万円 (参考) 平成30年 66,962百万円

【基本的方向】

若者にとって魅力ある雇用の場をつくるために、地域資源を最大限活用して「もうかる産業」（しごと）を創出する必要があります。

そのために、「松江市中小企業・小規模企業振興基本条例」の理念のもと、産業人材の育成・確保・定着や生産性向上の取組、販路開拓などを支援し、企業力を高めるとともに、ものづくり産業の活性化、松江発のプログラミング言語「Ruby」を軸にしたIT産業の振興、地域経済を牽引する中小企業・小規模企業の振興を進めていきます。

また、農林水産業においては、地域で生産された農林水産物の消費拡大につなげるために、他の産業との連携や六次産業化などの取組を強化します。

なお、市内で調達できるものは市内の事業者で購入する仕組み・仕掛けをつくり、内需拡大・地産地消を推進することにより、事業者・生産者の収入増につなげるとともに、地場製品の消費拡大を進め、活力あふれる松江をめざしていきます。

本市の地域経済の柱であり裾野の広い観光産業は、「国宝松江城」と「水の都松江」、茶の湯などの「城下町文化」などに磨きを掛け、ブランディングの強化を図り、国内外に戦略的にプロモーションを行うことで観光客の誘客拡大を図ります。

古くから先人たちが育んできた本市独自の重層で多様な「文化の価値」を正しく理解し、市民や地域の財産として保存・継承し、更なる発展・活用・創造につなげることで、文化を核とするまちづくりを推進します。さらに、本市に脈々と引き継がれて

きた伝統工芸の価値を引き出す仕組みづくり・担い手育成を進めていくことで生活文化産業として確立させ、松江の個性を生かしたしごと創出をめざします。

【基本目標に関する統計データ・市民アンケート等の特徴・傾向】

- ◇産業人口は、男性が卸売業・小売業、建設業、女性が医療・福祉、卸売業・小売業の就業者数が多い状況
- ◇観光業とともに域外需要を取り込んでいる製造業は、従業員数20人未満の事業所が約8割を占めるなど比較的規模の小さい事業所が多い、また、同規模の地方都市と比較すると製造品出荷額、付加価値額が低い水準
- ◇豊かさを評価する際に考慮した項目は、「自然環境の豊かさ」、「歴史・文化・芸術等の豊かさ」、「まち並みや景観の美しさ」など

【重点プロジェクト・具体的な事業と重要業績評価指標】

① きらりと光る元気な企業群づくりプロジェクト

地域経済を支える中小企業・小規模企業の設備導入やIT・IoT・AIなどの導入を支援し、企業の生産性向上や新商品・サービスの開発を促進し、付加価値の向上に取り組みます。併せて、市内小中学校でのRubyに触れる機会の創出や高等教育機関でのRuby講座に取り組むとともに、松江オープンソースラボを活用したワークショップやハッカソン¹¹を開催するなど、Ruby人材の育成の取組を進めます。

■重要業績評価指標（KPI）

KPI項目	目標値 (令和6年度・5か年)	現状値等
設備導入支援企業数	150社	160社 (平成26年度～平成30年度)
新製品・新技術開発支援事業 実用化製品化数	5製品	4製品 (平成26年度～平成30年度)
ソフトウェア導入支援企業数	50社	26社 (平成28年度～平成30年度)
Ruby技術者数 ※島根情報産業協会提供資料より	419人	319人 (平成30年度末)

(具体的な事業)

□別冊「基本目標を実現するための具体的な取組一覧」参照

11 ハッカソン：エンジニアやデザイナーなどが、与えられたテーマに対し、チームで短期間にサービスやシステムなどを開発し、成果を競うイベントの一種

②農林水産業の成長産業化プロジェクト

持続可能な魅力ある一次産業として発展させるために、地域資源の活用や域内循環を促進し、生産拡大・ブランド化・担い手育成・地産地消の推進・豊かな農山漁村環境と多面的機能の維持・保全や地域資源を生かした農山漁村地域の維持・活性を図ります。また、民間企業や研究機関と連携したロボット技術やIoT・AIなどの先端技術の活用、高等教育機関との連携による「人づくり」を強化するとともに、農林水産業者と商工業者の連携による商品・サービスの開発支援、域外販売を推進します。

■重要業績評価指標（KPI）

KPI項目	目標値 (令和6年度・5か年)	現状値等
農林水産生産額	104億円	97億円(平成29年)
営農組織(集落営農、農業法人、営農(企業))の新規設立	5組織	65組織 (平成30年度末)
新規の漁業経営体数	50経営体	1,173経営体 (平成30年度末)

(具体的な事業)

□別冊「基本目標を実現するための具体的な取組一覧」参照

③観光産業のバージョンアップ・インバウンド強化プロジェクト

「国宝松江城」と「水の都松江」、茶の湯などの「城下町文化」という松江の強みを活かしたブランディングとプロモーションで誘客を伸ばし、ナショナルパーク・ジオパークの島根半島などへの波及を図ります。新たな観光誘客対策として、これまでの大都市圏に加えて就航地が増えたFDA路線(東海・東北地区など)をターゲットとし、MICE¹²では新たに国内外企業のインセンティブ(報奨旅行)誘致など進めていきます。

併せて、体験型コンテンツやナイトタイムエコミー¹³の充実、宿泊施設等での人材育成など、質の高いサービス提供に取り組み、滞在日数の増、観光消費の拡大に繋がります。

また、東京オリンピック・パラリンピックを契機として2025の大阪関西万博も見据え、重点市場の台湾・香港・韓国・フランス・シンガポールへのJNTO(日本政府観光局)や広域DMOと連携したプロモーションを強化するとともに、新規路線就航の中国上海(米子空港)やタイ(広島空港)といった新市場の開拓をめざします。

来訪客が快適に過ごせるよう、Wi-Fi・キャッシュレスなど、環境整備を促進します。

このような戦略をスピード感を持って進めるための組織体制を確立させ、行政・民間一体となって推進します。

12 MICE…企業の研修・会議等(Meeting)、企業が従業員の表彰目的等で実施する旅行等(Incentive tour)、国際団体・学会等が主催する大会・会議等(Convention)、展示会・文化・スポーツイベント等(Event/Exhibition)の総称

13 ナイトタイムエコミー…日没から翌朝までに行われる経済活動の総称

■重要業績評価指標（KPI）

KPI項目	目標値 (令和6年度・5か年)	現状値等
観光入込客数	1,100万人	974万人（平成30年）
観光宿泊客数	250万人	203万人（平成30年）
外国人観光宿泊客数	15万人	7.5万人（平成30年）

（具体的な事業）

□別冊「基本目標を実現するための具体的な取組一覧」参照

④文化の多様な価値の創造と好循環プロジェクト

本市独自の重層で多様な文化の創造と活用に向けて本市の文化施策の方針を策定します。そして、文化が持つ価値を正しく理解・評価し、また、新たな文化を創造することで生まれる社会的・経済的な価値を文化の保存や継承、地域振興につなぐ好循環づくりに取り組みます。

松江の工芸（手仕事文化）の発信と作り手が集う拠点づくり、工芸を通じた松江の魅力発信、販路拡大、担い手の育成などに取り組みます。

■重要業績評価指標（KPI）

KPI項目	目標値 (令和6年度・5か年)	現状値等
芸術文化・伝統文化等の催事への参加者数 ※市民文化祭、市民音楽祭、市民美術展、松江クラシック音楽祭の来場者数の合計	10,000人	6,208人 (平成30年度)
工芸品の展示商談会における商談成立者数	22人	新規

（具体的な事業）

□別冊「基本目標を実現するための具体的な取組一覧」参照

基本目標2 松江の魅力に磨きを掛け、新しい人の流れをつくる

【数値目標】

項目	目標値（令和6年度・5か年）
Uターン者数 （転入時アンケートで把握）	1,445人 （参考）1,195人（平成30年度）
市内企業に就職する生徒・学生数 （市内の高校、専修学校、高等教育機関）	高校生：266人／年（参考）平成31年 206人 大学生等：435人／年（参考）平成31年 395人
松江ファンクラブ会員数	10,000人

【基本的方向】

新しい人の流れをつくるためには、松江の個性・住みやすさに磨きを掛け、「人や企業に選んでもらえるまち」をつくる必要があります。

ヒト・モノを呼び込むために、本市の魅力と暮らしのイメージを情報の質やタイミングを考慮しながら伝えていくことで、本市の暮らす場や学ぶ場、働く場としての優位性はより一層高まります。

そのうえで企業の本社機能などの誘致や高い専門性を持った学術機関との連携による産業の魅力化により、若者の地元就職や、人材還流につなげるほか、多様化する時代に即した人材育成を進めていきます。

将来のUターン者につながる「関係人口」の創出・拡大に取り組みます。また、副業・兼業も含めた多様な働き方を受け入れるための環境整備に取り組みます。

【基本目標に関する統計データ・市民アンケート等の特徴・傾向】

◇社会動態の年齢別・移動理由別では、「20～24歳の年代」が「就職を理由」に県外へ転出する傾向

◇社会動態の都道府県別の移動状況は、転入者・転出者の総数が多いのは中国地方、大きく社会減（転入者－転出者）となっているのは東京・大阪圏

◇本年6月に実施した学生アンケートでは、卒業後の進学・就職先について、市内出身者では、市内56.0%、県内8.4%、県外24.4%。県内出身者は、市内15.8%、県内47.0%、県外30.1%、県外出身者は市内8.1%、県内7.2%、県外75.0%。

【重点プロジェクト・具体的な事業と重要業績評価指標】

①拠点化推進プロジェクト

競争力を高め、多種多様で強固な産業形成のため、企業の本社機能や研究機関の誘

致・地方拠点化や首都圏大学との連携協力協定に基づいた、高い専門性の追求により、地元産業の魅力化を促進します。

■重要業績評価指標（KPI）

KPI項目	目標値 (令和6年度・5か年)	現状値等
誘致・新增設企業数	50社	42社 (平成26年度～平成30年度)
本社機能を移転した企業	2社	2社
首都圏大学との連携協力協定に基づく共同研究件数	5件	新規

(具体的な事業)

□別冊「基本目標を実現するための具体的な取組一覧」参照

②人材還流・松江暮らし推進プロジェクト

地域の魅力を掘り起こし、それを市内外に効果的に発信するシティプロモーションに取り組み、定住人口の獲得を図ります。

まちづくりのための学生アンケートによると、卒業後の進学・就職先について、市内出身者は市内を希望する割合が高いことから、島根大学や島根県立大学が行う入試制度の見直しの状況を注視し、市内高等学校からの進学者の増加に向けて高等教育機関等との連携を強化していきます。また、市内企業へのインターンシップの支援、学生に地元企業の魅力を早い段階からわかりやすく伝えるなど、地元就職の促進を図ります。

Uターン者増加のため、本市で暮らし、働くことの優位性を効果的に伝えつつ、相談者のニーズにきめ細かく対応できる支援体制を構築していきます。

■重要業績評価指標（KPI）

KPI項目	目標値 (令和6年度・5か年)	現状値等
松江に愛着を持つ市民の割合	90.0%	82.0% (令和元年度市民アンケート調査)
地元企業への就職件数 ※松江公共職業安定所が紹介し、就職に至った述べ件数（パート含む）	25,878人	24,646人 (平成26年度～平成30年度)

首都圏からの移住支援事業利用者数	150組	新規
------------------	------	----

(具体的な事業)

□別冊「基本目標を実現するための具体的な取組一覧」参照

③関係人口の創出・拡大プロジェクト

関係人口は、本市に移住するきっかけにもなります。松江のファンになり、縁や関わりを深め、移住に結び付くプロセスを着実に歩んでもらう取組を戦略的に実施していきます。

また、都市部の企業従業者向けに、本市の自然環境を生かしたアクティビティや観光を組み合わせた、松江モデルの働き方を提供して、積極的な呼び込みを行うとともに、首都圏大学との連携協力協定に基づく学生との交流を深めることで、関係人口の裾野を広げていきます。

ふるさと寄附を契機とした関係人口を創出・拡大し、松江ファンを獲得します。また、創出・拡大された関係人口が松江市のまちづくりに貢献する手段の1つとして、ふるさと寄附を積極的に推進します。

■重要業績評価指標 (KPI)

KPI項目	目標値 (令和6年度・5か年)	現状値等
市内でのテレワーク実施者受け入れ数	80人	26人
首都圏大学との連携協力協定に基づく交流学生数	20人	新規
ふるさと寄附件数	5,000件	2,430件

(具体的な事業)

□別冊「基本目標を実現するための具体的な取組一覧」参照

④未来を担う次世代“人財”育成プロジェクト

地域との結びつきを深めながら、子どもたちの「自ら学ぶ力」を育て、確かな学力を育み、豊かな心とふるさとに愛着と誇りを持ち、グローバルな視点を持った人材の育成を推進します。

そのために、子どもたちの学ぶ力、生きる力を育む探究的な学習、松江城授業プロジェクトや職業人講座などのふるさと教育やキャリア教育の推進に取り組みます。また、新学習指導要領に対応した市立小中学校におけるRubyを用いた授業やプログラミング教育などに取り組んでいきます。

また、地域の将来を担う人材や国際的な視野を持ち活躍する人材を育成する市立女子高等学校の魅力化を図ります。

市内の高等学校や高等教育機関等が実施する地域の課題解決型学習において、フィールドワークの受入れなど、各機関と連携し、地域の未来を支える人材の育成に取り組みます。

■重要業績評価指標（KPI）

KPI項目	目標値 (令和6年度・5か年)	現状値等
全国学力・学習状況調査（小6、中3）における全国平均値以上の調査項目数	小6：100% 中3：100%	小6：0%（0科目/2科目） 中3：66.6% (2科目/3科目)
島根県学力調査（小5・6、中1・2）県平均値を上回った科目の割合	小5・6：100% 中1・2：100%	小5・6：100% 中1・2：100%
家庭学習が1日1時間以上ある児童生徒の割合	小6：73% 中3：74%	小6：66.5% 中3：61.1%
今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	小6：82% 中3：63%	小6：74.1% 中3：46.9%
地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある児童生徒の割合	小6：60% 中3：45%	小6：52.8% 中3：37.6%
市内高等学校、高等教育機関が実施するフィールドワーク等の受入れ校数	21校	6校

（具体的な事業）

□別冊「基本目標を実現するための具体的な取組一覧」参照

基本目標3 一人ひとりが個性と多様性を尊重され、誰もが活躍できる地域社会をつくる

【数値目標】

項目	目標値（令和6年度・5か年）
住みやすさの実感割合 (20～30代)	95% (参考) 令和元年度市民アンケート調査：77.6%
子育て支援策の満足割合	80% (参考) 令和元年度市民アンケート調査：64.5%

女性の就業率 ※25～44歳の女性の就業率	88.3% (参考) 平成29年就業構造基本調査：85.1%
--------------------------	-----------------------------------

【基本的方向】

少子化対策については、国を挙げて強力的に推進するとともに、本市においても「子育て環境日本一」の実現に向け、市民に寄り添った支援の強化、子育て世代の目線で情報を発信、長時間労働の是正などのワーク・ライフ・バランス推進、男性の家事・育児・介護への参画促進に取り組みます。

人口減少、少子高齢化が進行する中で、将来にわたって持続可能な活力ある地域社会をつくるためには、女性、高齢者、障がい者、ひきこもり、外国人など誰もが包摂され活躍できる社会を実現することが重要です。

一人ひとりが個性と多様性を尊重され、家庭で、地域で、職場でそれぞれの希望がかない、能力を発揮でき、生きがいを感じながら暮らすことができる環境を創出していきます。

【基本目標に関する統計データ・市民アンケート等の特徴・傾向】

- ◇本市の未婚率は、25歳から29歳の男性68.1%、女性58.9%、30歳から34歳の男性42.8%、女性32.6%、35歳から39歳の男性32.5%、女性23.1%（平成27年国勢調査）
- ◇本年6月に実施した市民アンケートでは、「結婚したい」が31.8%、「いずれは結婚したいが当面する気はない」が34.7%、「結婚する気はない」が27.1%（10～50代）、学生アンケートでは、「いずれは結婚したい」が71.8%、「結婚する気はない」が7.8%
- ◇理想とする子どもの人数は、平均2.4人（現在の子どもの人数は平均1.7人）
- ◇子どもの数の制限要因は、「養育費用」、「健康上の理由」、「自分または配偶者の年齢」、「仕事との兼ね合い」、「手助けしてくれる人がいない」

【重点プロジェクト・具体的な事業と重要業績評価指標】

①結婚支援の充実と子育て環境日本一実現プロジェクト

出会いの場づくり、結婚、出産・子育てに至る切れ目のない相談支援体制の強化や子育て環境の充実、加えて、地域・コミュニティの子育て力を活用し、「子育てするなら松江」を実感してもらえる取組を進めます。

また、女性を含めた若い世代が働き続けやすく・育児しやすい環境を創出します。

平成28年に産・学・労共同で行った「まつえワーク・ライフ・バランス推進宣言」をもとに、引き続き、産・学・労が連携して機運醸成を図り、誰もが働きやすい環境づくりを進めていきます。

■重要業績評価指標（KPI）

KPI項目	目標値 (令和6年度・5か年)	現状値等
しまね縁結びサポートセンター、JA くにびき結婚相談窓口の登録者数	674人	485人 (平成30年度)
妊娠届時の面接率	100%	100% (平成30年度)
保育所待機児童数	年度当初：0人 年度末：245人	年度当初：0人 (平成31年度) 年度末：337人 (平成30年度)
まつえワーク・ライフ・バランス推進 ネットワーク事業所数	380事業所	122事業所 (平成30年度)

(具体的な事業)

□別冊「基本目標を実現するための具体的な取組一覧」参照

②女性の活躍促進、誰もが活躍できる地域社会の実現プロジェクト

女性が、個性と能力を十分に発揮することができる地域づくりをまち全体で推進し、環境を整えていきます。

高齢者がこれまで培ってきた能力を生かして生涯現役で活躍し続けられる仕組みや障がい者の就労や社会参加の場を選択できる仕組みを充実させるなど、年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが能力を生かして活躍できる環境づくりに取り組みます。

外国人住民の文化的多様性を生かした活躍を促進するとともに、外国人住民の生活支援や地域における交流の促進を図り、多文化共生のまちづくりを推進します。

■重要業績評価指標（KPI）

KPI項目	目標値 (令和6年度・5か年)	現状値等
まつえ男女共同参画推進宣言企業延 べ数	210事業所	45事業所 (平成30年度)
指導的立場（企業）にある女性の割 合	30%	23.1% (平成29年度)
まめなかポイント事業（ボランティ アポイント事業）個人登録者数	200人	123人 (平成30年度)
障がい者就職件数	411人	363人 (平成30年度)

(具体的な事業)

□別冊「基本目標を実現するための具体的な取組一覧」参照

基本目標4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

【数値目標】

項目	目標値(令和6年度・5か年)
住みやすさの実感割合	95% (参考) 令和元年度市民アンケート調査: 82.2%
健康寿命(65歳平均自立期間)	女性21.66年 男性19.06年 (参考) 女性21.05年、男性18.00年(平成29年度)

【基本的方向】

子どもから高齢者まで全ての市民が生涯現役として健やかに暮らせる「健康都市まっつえ」の実現をめざします。

地域の特色を生かしたスポーツ活動を推進するとともに、スポーツの持つ多様な力を活用したまちづくりによる地域の活性化に取り組みます。

豊かな自然ときれいなまちを後世に引き継ぐため、循環型社会の構築に取り組みます。また、多様な文化財や歴史的まち並みなどの歴史的風致に磨きをかけ、将来を見据えつつ本市の魅力を高める歴史を生かしたまちづくりを推進します。

水害の発生リスク、近年の度重なる大災害を教訓とし、国土強靱化の取組をすすめるとともに、自主防災組織などの地域防災力向上に取り組むことで、安全に安心して生活できる環境づくりをめざします。

【基本目標に関する統計データ・市民アンケート等の特徴・傾向】

◇住みやすさ(機能性)について、市民アンケートでは、「住みやすい: 25.8%」、

「どちらかと言えば住みやすい: 56.4%」、「どちらかと言えば住みにくい:

10.4%」、「住みにくい: 2.7%」

◇住みやすさを評価する際に考慮した項目は、「買い物環境の利便性の高さ」、「治安の良さ」、「気候や自然環境の良さ」など

◇豊かさ(情緒性)については、「豊かなまち: 10.4%」、「どちらかと言えば豊かなまち: 59.7%」、「どちらかと言えば豊かではない: 23.1%」、「豊かではない: 6.7%」

◇豊かさを評価する際に考慮した項目は、「自然環境の豊かさ」、「歴史・文化・芸術等の豊かさ」、「まち並みや景観の美しさ」など

【重点プロジェクト・具体的な事業と重要業績評価指標】

①健康都市まつえ・スポーツによるまちづくりプロジェクト

「健康都市まつえ」の実現に向けて、家庭、地域、企業、行政が一体となった健康づくりの取組を進めます。より効果的に施策を展開するため、保健所の専門的な知見や各種データ、医師会など関係組織とのネットワークなどを活用し、施策を推進していきます。

スポーツ活動の推進及びスポーツによる地域振興を図るために「松江市スポーツ推進計画」を策定し、市民が気軽にスポーツに取り組みやすい環境の整備やスポーツ活動の支援、従来のスポーツの枠を超えて観光産業や教育機関など様々な分野と連携する地域スポーツコミッション¹⁴などの組織体制づくり、人材の育成に取り組みます。

■重要業績評価指標（KPI）

KPI項目	目標値 (令和6年度・5か年)	現状値等
受診率（国保特定健診）	60%	45.8% (平成30年度)
国民健康保険給付費（医療費）	133.1億円	134.6億円 (令和元年度)
要介護認定率	20.8%	20.2% (平成30年度)
健康づくり（運動・スポーツ）に取り組んでいる市民の割合	65%	38.2% (令和元年度)

（具体的な事業）

□別冊「基本目標を実現するための具体的な取組一覧」参照

②松江の魅力を高める環境・都市デザイン推進プロジェクト

「世界に誇る環境主都まつえ」の実現をめざし、自然環境の保護、リサイクルの向上など循環型社会の構築を進めるとともに、環境課題にSDGsの視点を取り入れ、地域課題の解決に取り組む人材の発掘・育成を行います。

持続可能な歴史を生かしたまちづくりを進めるとともに、本市の魅力である多様な文化財や歴史的なまち並みなどの歴史的風致の維持向上に取り組みます。

「既存ストックの有効活用」に向けて、エリアリノベーション¹⁵の推進により、遊休不動産の活用を図り、まちなかの再生と市域全体の活性化をめざします。

14 地域スポーツコミッション：地方公共団体とスポーツ団体、観光産業等の民間事業者が一体となり、スポーツを目的としたツーリズムの推進や、スポーツイベントの開催、大会・合宿の誘致等により、地域活性化や地域課題の解決をめざす活動に取り組む連携組織。

15 エリアリノベーション：建物のリノベーションをエリア内で連鎖的に行い、民間による経済合理性の高い「稼ぐ」事業を創出し、エリアの価値の向上をめざす取組のこと。

宍道湖をはじめとした豊かな自然環境の保全・活用を図ります。また、公共交通網の整備の実現に取り組み、魅力あふれる地方拠点都市を実現します。

■重要業績評価指標（KPI）

KPI項目	目標値 (令和6年度・5か年)	現状値等
リサイクル率	34%	29.4% (平成29年度)
環境保全活動人材育成講座の修了者数	750人	新規
人口集中地区内の人口密度	48人/ha	48人/ha (平成30年度)
路線バス・コミュニティバス利用者数	484万人	479万人 (平成30年度)
歴史的建造物登録認定数	20件	11件 (平成30年度)
空き家バンク等による活用件数	328件	228件 (平成30年度)
遊休不動産の実事業化数	25件	新規
水辺の公共空間活用日数	886日	548日 (平成26年度-平成30年度)

(具体的な事業)

□ 別冊「基本目標を実現するための具体的な取組一覧」参照

③国土強靱化、安心安全なまちづくりプロジェクト

平常時から人命を保護し、また、社会経済への影響を最小限にとどめ、迅速な回復を図るため「松江市国土強靱化地域計画」を策定し、本市の強靱化に取り組みます。

また、ハード・ソフト両面からの防災・減災体制の充実を図るとともに、自主防災組織などの地域防災力向上に取り組み、安全に安心して生活できる環境づくりに取り組みます。

■重要業績評価指標（KPI）

KPI項目	目標値 (令和6年度・5か年)	現状値等
災害時の安心感	70%	41.4% (令和元年度 市民アンケート調査)

要配慮者支援組織世帯カバー率	70%	36.7% (平成30年度)
自主防災組織の結成率	100%	71.5% (平成30年度)

(具体的な事業)

- 別冊「基本目標を実現するための具体的な取組一覧」参照

基本目標5 中海・宍道湖・大山圏域の連携強化により、日本海側の拠点をつくる

【数値目標】

項目	目標値
圏域人口	60万人の維持(2060年) (参考) 令和元年10月現在: 644,577人

【基本的方向】

中海・宍道湖・大山圏域市長会で策定した圏域版総合戦略に基づき、2060年に圏域人口60万人の維持をめざし「県境を越えた広域連携による、住みたくなる圏域づくり」を構成市が一体となって進め、日本海側の重要戦略拠点を形成していきます。

【具体的な事業と重要業績評価指標】

※重要業績指標(KPI)は、中海・宍道湖・大山圏域市長会にて検討中です。

①国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成

アジアをはじめ世界に向けたゲートウェイ機能のさらなる活用、インド・台湾との経済交流の拡大、圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展、国内及びインバウンド観光の推進に取り組みます。

(具体的な事業)

- 別冊「基本目標を実現するための具体的な取組一覧」参照

②未来をひらく交通ネットワークの形成

中海・宍道湖を介する「8の字ルート」等の早期完成、重要港湾境港の利便性向上、新幹線ネットワークの整備、航空路線の充実に取り組みます。

(具体的な事業)

- 別冊「基本目標を実現するための具体的な取組一覧」参照

③恵まれた生活環境を生かした圏域の形成

圏域への移住・定住の促進、自然環境の保全と活用、健康長寿圏域の形成、圏域内公共交通の利便性向上に取り組めます。

(具体的な事業)

- 別冊「基本目標を実現するための具体的な取組一覧」参照

資料編

－ 目 次 －

- I 松江市まちづくりのための市民アンケート調査調査結果（概要版）

- II 「松江市まち・ひと・しごと創生《人口ビジョン》《第2次総合戦略》」に関するご意見・ご提案等
 - 1 松江市総合計画・総合戦略推進会議（第1回 7/2、第2回 9/30）
松江市総合計画・総合戦略推進会議 委員名簿
 - 2 パブリックコメント（10/16～11/14）
 - 3 第2次総合戦略に向けた事業提案
（松江市総合計画・総合戦略推進会議構成団体等）
 - 4 参考資料
 - （1）まちづくりのためのワークショップ（8/18）
 - （2）まちづくりのためのインタビュー（9月～10月）

- III 松江市まち・ひと・しごと創生《人口ビジョン》《第2次総合戦略》
策定の歩み

I 松江市まちづくりのための市民アンケート調査

【令和元年度（2019年度）調査】

調査結果（概要版）

1 調査概要

(1) 目的・内容

松江市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・第2次総合戦略の策定にあたり、市民がより暮らしやすいと実感できるようなまちになるよう、松江市の今後のまちづくりについて市民、中学生、高校生、学生のニーズや意見を広く聞き、計画策定の基礎資料として活用することを目的に実施しました。

(2) 調査対象・調査方法

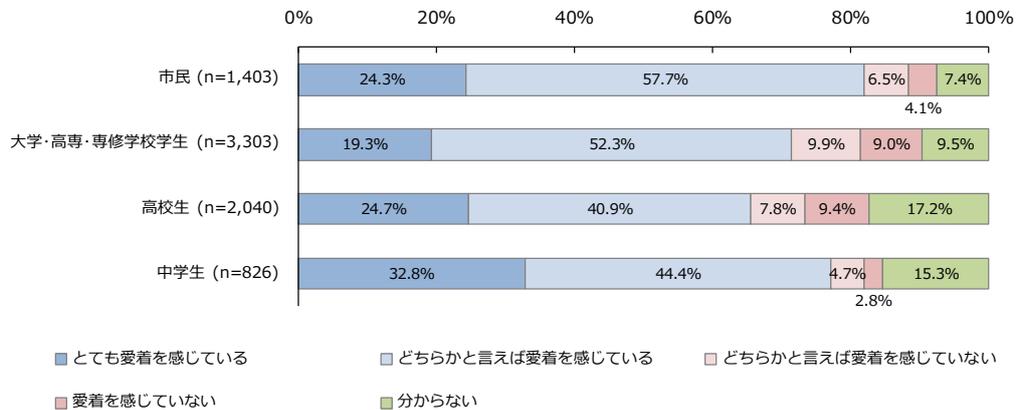
区 分	対象者	調査方法	回収数/配布数 (回収率)
市 民	松江市在住の18歳以上の市民のうち、無作為に抽出した10,000人	郵送配布 郵送回収	1,432/3,200 (44.8%)
中学生	市立中学校に通学する2年生とし、当該学年の生徒数が50名以下の学校では1クラス、51～200名の学校では2クラス、201名以上の学校では3クラスを抽出	学校を通じた 配布・回収	830/861 (96.4%)
高校生	市内の高校に通学する高校2年生	学校を通じた 配布・回収	2,052/2,237 (91.7%)
学 生 (大学、専 修学校、高 等専門学 校)	島根大学(3回生・4回生) 島根大学大学院(1回生・2回生) 島根県立大学〈松江キャンパス〉 (1回生・2回生) 大阪健康福祉短期大学〈松江キャンパス〉 (1回生・2回生) 松江工業高等専門学校 (本科4年生・5年生、専攻科1,2年生) 松江栄養調理製菓専門学校(全学生) 松江理容美容専門学校(全学生) 専門学校松江総合ビジネスカレッジ(全学生) 松江総合医療専門学校(全学生) 松江看護高等専修学校(全学生) 島根県立松江高等看護学院(全学生) 島根県歯科技術専門学校(全学生) 山陰中央専門学校(全学生)	学校を通じた 配布・回収	3,358/4,704 (71.4%)

(3) 調査結果（抜粋）

アンケート結果の詳細は、市ホームページに掲載しています。

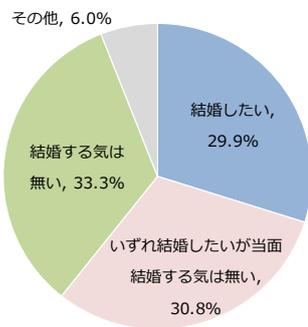
<http://www1.city.matsue.shimane.jp/shisei/keikaku/seisaku/matsueshiminanketo/>

〔市民・学生・高校生・中学生〕松江市に対する愛着の度合い【単一回答】

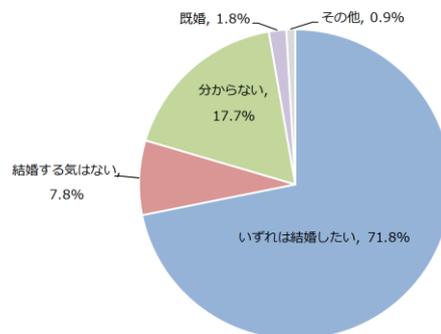


〔市民・学生〕結婚に対する気持ち【単一回答】

〔市民〕未婚者の結婚に対する気持ち (n=201)

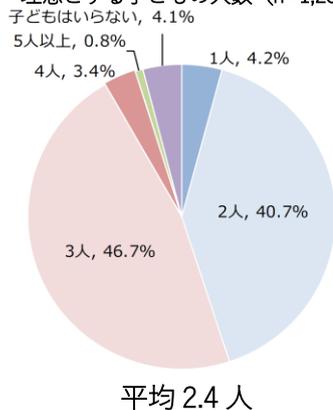


〔学生〕結婚に対する意識 (n=3,276)

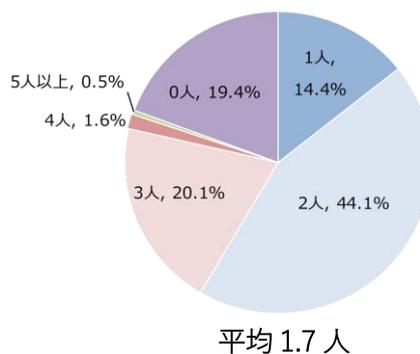


〔市民〕理想とする子どもの人数、現在の子どもの人数【単一回答】

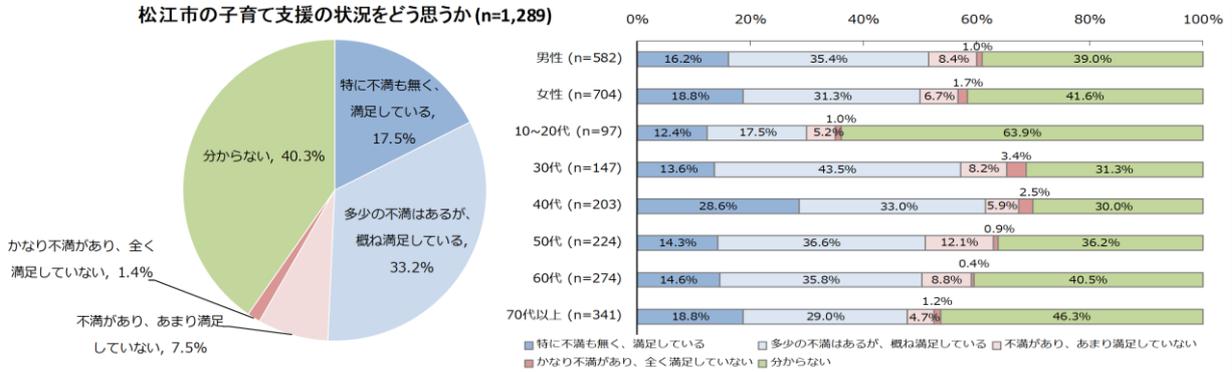
理想とする子どもの人数 (n=1,254)



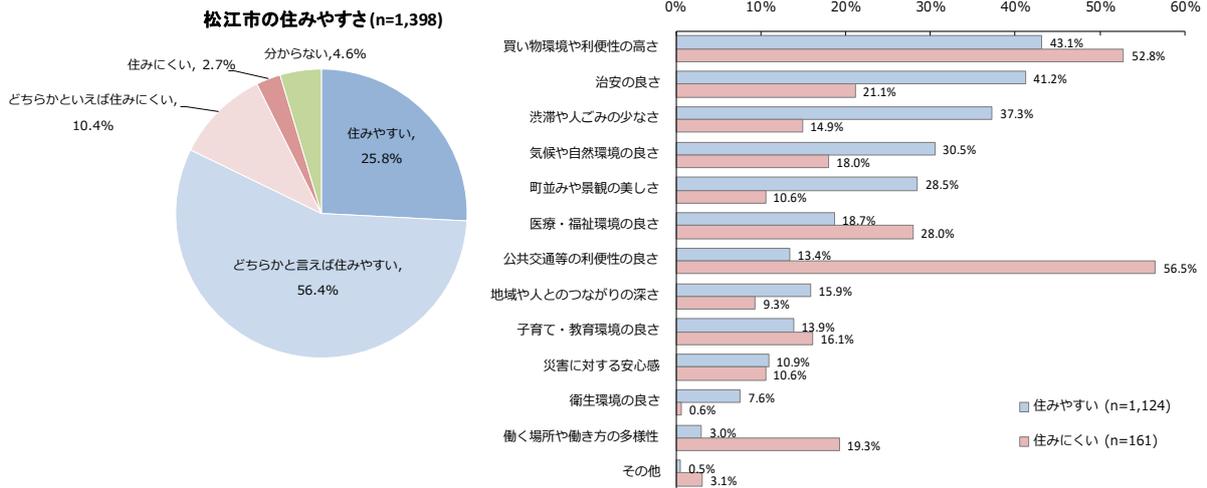
現在の子どもの人数 (n=1,331)



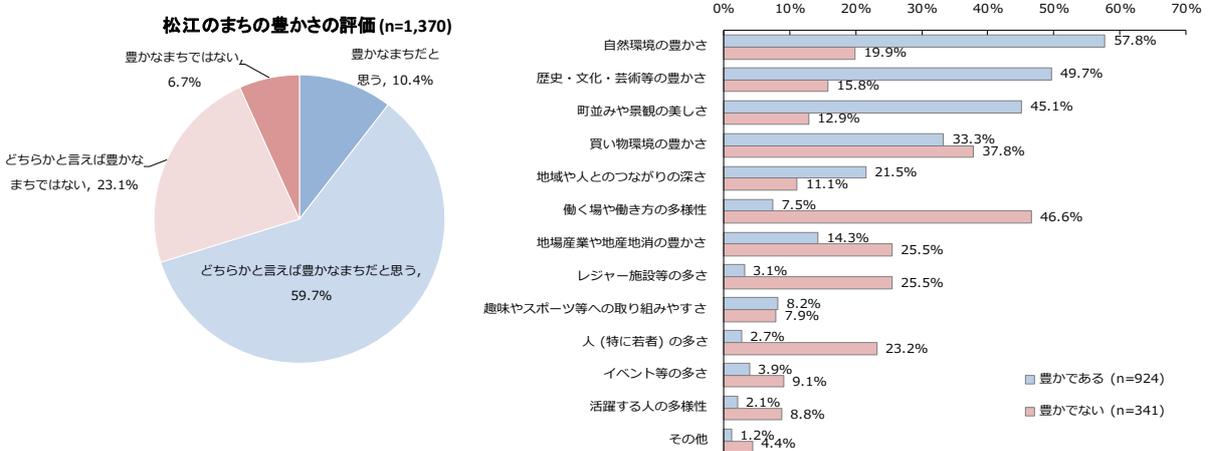
〔市民〕松江市の子育て支援の状況をどう思うか【単一回答】



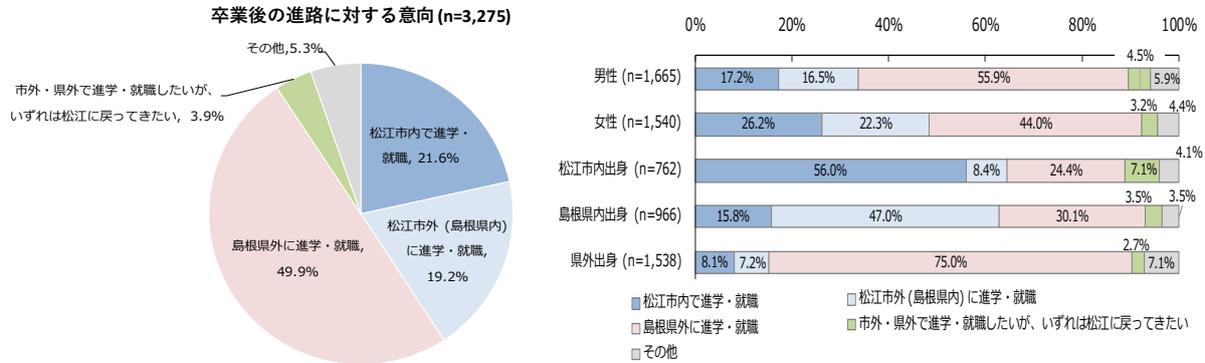
〔市民〕松江市の住みやすさ【単一回答】



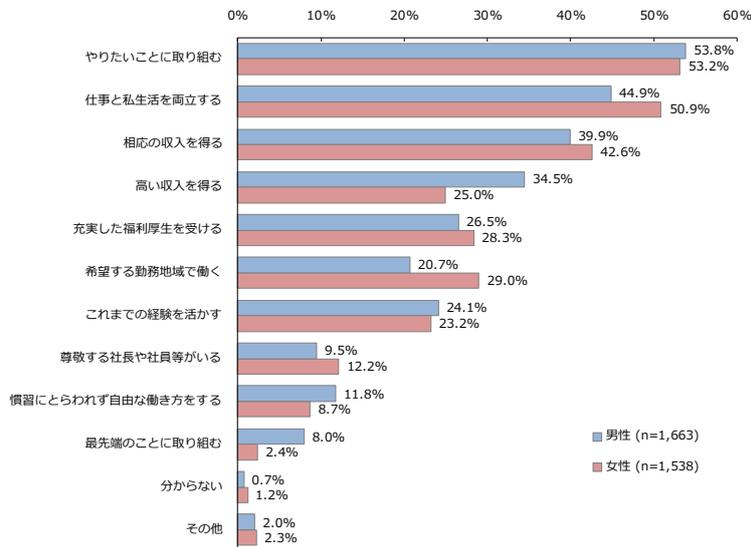
〔市民〕松江のまちの豊かさの評価【単一回答】



〔学生〕卒業後の進路に対する意向【単一回答】

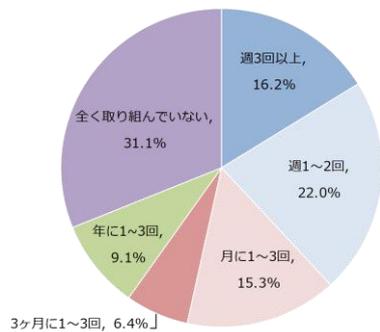


〔学生〕仕事を選ぶ上で重視したいこと【複数回答（3つまで）】



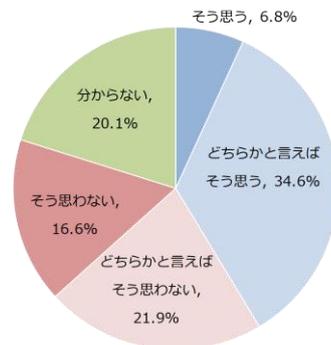
〔市民〕この1年間に取り組んだ運動やスポーツの日数【単一回答】

運動やスポーツの日数 (n=1,398)



〔市民〕居住地域の防災環境を安心だと思えるか【単一回答】

防災環境を安心だと思えるか (n=1,411)



Ⅱ 「松江市まち・ひと・しごと創生《人口ビジョン》 《第2次総合戦略》」に関するご意見・ご提案等

- 1 松江市総合計画・総合戦略推進会議（第1回 7/2、第2回 9/30）
松江市総合計画・総合戦略推進会議 委員名簿
- 2 パブリックコメント（10/16～11/14）
- 3 第2次総合戦略に向けた事業提案
（松江市総合計画・総合戦略推進会議構成団体等）
- 4 参考資料
（1）松江市まちづくりのためのワークショップ（8/18）
（2）松江市まちづくりのためのインタビュー（9月～10月）

1 松江市総合計画・総合戦略推進会議 (第1回7/2、第2回9/30)

A 第2次総合戦略（最終案）に取り入れている意見

戦略全体の考え方

- 1 「圧倒的な松江の魅力」を作るため、施策の選択と集中をしっかりとやる必要がある。
- 2 減少する世代が女性で18歳から24歳くらいであれば、どうして松江から外へ出ていくのか、その方々の意見や考え方をきちんと把握する必要があると考える。そのうえで、ターゲットとなる方々に寄り添って解決していくことが必要である。
- 3 女性も自由な生き方ができるのが当然であり、出生数を増やすためではなく、女性が自然に松江で住み続けたい、生みたい、育てたいことが大事である。
- 4 第2次の総合戦略のなかに、各項目がSDGsの17の項目のゴールのマークを付けるなど、意識した表現・表記をしてほしい。
- 5 Society5.0、最先端の技術の活用にあたっては、新しい技術と古き良きものの融合、生活への融合、そして世界への情報発信が、魅力あるまちづくり、キラーコンテンツになると考える。最先端技術を産業にし、また教育機関ではその人材を着実に育てていく流れを松江市に作り、それを全国あるいは世界に発信していくことが必要である。

基本目標1 若い世代の希望を生み出す個性豊かで地域の特色を生かした産業と雇用を創出する

- 6 人手不足というのが松江を支えている産業界の最大の課題になっている。成長をおそらく頭打ちさせるかもしれない状況。外国人の雇用を含めてどう環境を整備するのが重要である。
- 7 人口減少を食い止めるためには、地域の企業の安定・発展により雇用を増やすことが必要である。
- 8 独自のサービスや製品を提供してしっかり稼ぐ企業がきらりと光る企業であると考えている。そして利益を従業員に還元する、そうした企業を支援してほしい。
- 9 松江の農業の強みは、消費地が近く物流コストが県内他地区に比べて安価あるということ、弱みは、平野が少なく土壌によっては作物が作りにくいことである。今後は地産地消に力を入れてほしい。
- 10 農業サポーター制度やスマート農業への支援を充実してほしい。

- 11 松江市の漁港や港湾はたくさんあるが、あまり使用されていない遊休地もある。遊休地をワカメ養殖や加工場用地として提供してほしい。
- 12 漁業は、一本釣りや定置網、通年操業ができるもの、そして冬場の荒天時にはワカメ養殖、サザエやあわびを採る採貝漁などを複合的にやっていけば、将来的に有望な職種である。しかし、自分の腕一本でやる業でとても大変である。そういった部分への支援制度を充実してほしい。

基本目標2 松江の魅力に磨きを掛け、新しい人の流れをつくる

- 13 市役所横にある「S U E T U G U」を活用するなどして、市政にかかわる機会の少ない方や県外から来られた方々の声を聞き取れる場所・窓口が必要ではないか。
- 14 Iターン、Uターンの方の松江の暮らしに対する声を広げることが松江のPRにつながる。
- 15 松江の魅力を発信するプロモーションにも力を入れるべきである。
- 16 市内外へのシティプロモーション、松江ファンクラブ、それから、関西近畿会、東京会、各高校で同窓会への発信など、松江の魅力を発信を強化してほしい。
- 17 松江市の方向性やまちづくりについて、いろんな場面を通じて市内外に情報発信を、魅力の発信とともにすることがまちづくりの基本になる。今一度、広報、情報発信に力を入れるべきである。
- 18 松江の人やモノやコトのどこが素晴らしくて、帰ってきたいと思うコンテンツがターゲットを絞って、伝わるかが大切である。広報戦略に時間やものやお金を費やす必要がある。
- 19 松江の魅力を掘り起こしや魅力の発信方法など、県外出身者の多い島根大学の学生と一緒に取り組んでほしい。
- 20 松江ファンクラブアプリなど、若い人、学生の話聞く機会をぜひ設けてほしい。
- 21 共創協働マーケットは来る人が限られているので、市民が一回は参加するような流れにしてほしい。
- 22 地域課題に対して、市民の人達が松江にはこんな課題があると知る機会、課題解決に向けて、出会うべき人達が出会う機会をつくるマッチングの仕組みが大事である。
- 23 山陰の企業では夏のインターンシップがほとんどであるが、大学では冬や春先の受け入れが大事であると分析している。インターンシップへの支援に取り組んでほしい。

- 24 多数の地元出身の大学生の方が就職のときに松江での仕事、公務も含めて選択肢にいれてもらう方策、例えば、都会に比べての松江での生活の豊かさとか、仕事の魅力度等について理解を深めてもらう努力が求められる。
- 25 県外進学をする生徒に地元の企業を知る機会を作るなど、他がやっていない戦略に取り組む必要がある。
- 26 高校までのところで企業の情報や地域、人を知ることが必要である。
- 27 都会地と地元と比較した生涯賃金、また支出の対比などを中学校や高校で毎年の配布してほしい。また、大学生の子を持つ保護者に対しても伝えてほしい。
- 28 高等教育機関等では、専門性を持った企業と連携した学部を作り、地域の一番根付いた産業を増やす取り組みが必要である。
- 29 看護学生は、県内の病院が満たされていると、それ以外の人は県外に出ると聞いている。しかし、松江市においても福祉施設や訪問看護はまだ不足している状況である。人材を必要とする職場を魅力化して定着につなげることが必要である。
- 30 少子高齢化人口減少のなかで、75歳以上の後期高齢者は、2030年から40年くらいところで、これから1万人以上増えると予測されている。予防と自立支援、看取りといったニーズも出てくるなかで、経済活動を支えるのは福祉であると考えている。しかし、福祉を支える、特に介護を支える人材は現在も不足している状況。今後、松江の介護のブランディングと松江の介護の魅力の発信、誰もが活躍できる地域社会の実現、共生社会の実現に向けて取り組む必要がある。
- 31 医療・福祉分野に若い方を取り込む工夫、働きやすい環境の整備などを今まで以上に整えていく必要がある。
- 32 市と島根県立大学の連携を密にして、より一層、学生一人一ひとりの松江での暮らしを印象深いものとし、松江市の関係人口づくりに繋げていきたい。
- 33 島根県立大学では、松江の観光資源を学生自らが発信したり、地域の方々と一緒に活動したり、松江の課題を考えたりする、学外での学生の積極的な活動を支援・育成する考えであり、市など関係機関との連携を深めていきたい。
- 34 地元で就職する意識づくりのため、キャリア教育のなかに、地域にいる方や一度県外に出て戻って来られた方との対話の機会が重要であるとする。
- 35 子ども達が成人して県外に出た後、小さいころの思い出をもう一回思い出してこっちに帰ってくるなど、長期的ビジョンで松江の豊かな自然を生かしたふるさと教育が必要と考える。

- 36 学力調査について、松江市内で独自の統一テストをして、個々の学力が客観的に見られるような取り組みを始めると良いのではと考える。そして、生徒が、自分がやりたい仕事に就くためにはどういったことを勉強するのかということも考えさせていく必要がある。
- 37 選ばれる松江として、この地に留まる、または来てもらえるため、教育力の向上や子育ての環境、教育の環境を総じて向上させることが必要である。

基本目標3 一人ひとりが個性と多様性を尊重され、誰もが活躍できる社会をつくる

- 38 基本的には安心して子どもを預けられる保育環境の充実が一番だと思うので、一日も早い待機児童の解消をめざすべきである。
- 39 保育者の処遇、給与が大変安く離職率も高い。学生が保育者としての夢を叶えられるように、保育環境を整えるうえでの保育者の環境整備に取り組んでいただきたい。
- 40 若い方たちが安心して子供を産み育てたいから松江に住もう、松江に帰ろうと思えるくらい思い切った新しい子育て支援と特に産後ケアの拡充をお願いしたい。
- 41 特にハイリスクを持つ子どもの子育て支援は非常に重要になってくると思う。また、自分が24時間対応できないときに助けてもらえるような子育て支援の場が望まれる。そうした子育て支援の拠点が必要である。
- 42 国でスマート公共サービスとして導入が検討されている「子育てノンストップサービス」をいち早く導入し、子育て世代の負担を軽減し、産前からの切れ目のないサポート体制づくりに取り組んでほしい。
- 43 小児期からの成人病、生活習慣病予防に取り組むことが大切である。乳幼児健診、保育所や小学校など、乳幼児期から、家族や関係者が次々とバトンタッチをして取り組むことが重要である。予防活動を市を挙げて取り組んでほしい。
- 44 女性の活躍について、松江であれば、安心して生み育てることができ、社会や企業でも十分に活躍できる、という何か強みがあると本当の意味で女性が活躍できる社会が実現できると考える。
- 45 女性たちが出産や子育てをしながらも地域や企業で生き生きと活躍するためには、男性の育児参画は欠かせない。家庭はもちろん、地域や社会全体で子育てができる支援をお願いする。
- 46 技能実習生が増えているが、企業に外国人が勤められた後についてフォロー体制をしつかりして、海外の方からも来やすいまち松江として発信するとよい。

基本目標4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

- 47 市民アンケートから、まちの豊かさの評価について、一番高いのは環境や自然環境である。豊かな自然環境というのは、投げておいて成立するものではないので、次期戦略でも地域の自然環境の保全について配慮がされていくべきである。
- 48 松江が住みたい都市に選ばれる理由の上位に「環境」があげられるが、SDGs の理念からも、環境を守り、持続可能な住みたい定住圏をどのように作るのか、次期戦略で取り入れてほしい。
- 49 レジャースポーツ・健康スポーツについての情報発信について工夫する必要がある。
- 50 「健康都市まつえ」宣言に掲げる取組を第2次総合戦略に取り上げ、推進してほしい。
- 51 予防や健康寿命の延伸、長寿化の面に力を入れてほしい。
- 52 大規模災害時の拠点施設の機能を有しております総合体育館について、関係機関と連携して、定期的に避難所開設の実働訓練を実施するなど、安心・安全なまちづくりに取り組んでほしい。
- 53 災害時の福祉的な支援や災害時の被害を最小限に抑えられるようなことも官民共働で考えていくことで安心安全なまちづくりに繋がると考える。

基本目標5 中海・宍道湖・大山圏域の連携強化により、日本海側の拠点をつくる

- 54 中海圏での関係人口を増やすことも若い人にとってもこの圏域で楽しんで暮らせるまちづくりという視点で非常に大事である。圏域に関係人口を増やす目標を作り取り組んでほしい。

B 今後の取組を検討するうえで参考とさせていただきご意見

- 54 第2次総合戦略を市民に浸透させていくために、当事者意識と危機感を市民の皆さんに持ってもらうような広報をしてほしい。
- 55 共創協働は全体にかかってくる部分なので、整理し、目に見える形にしてほしい。
- 56 人材育成の面から地域に出来ることは多々ある。その一つが「対話力」であり、地域がやっていくべきことであると思う。益田市教委育委員会が実施している「ライフキャリア教育」に人と人との対話を重視する「カタリバ」というプログラムがある。非常に重要かつ有効なものとする、是非とも案に入れてほしい。
- 57 0歳から保育所・幼稚園・認定こども園、小学校、中学校、高校、大学と一貫して松江市でめざす人材、こんな資質・能力を持った人材を育てたいというようなビジョン、指針づくりを行う必要がある。
- 58 人口減少対策波及効果の分析が可能であれば、今後、取り組んでほしい。

C 現時点では取り入れることが難しいご意見

- 59 例えば、養子縁組という制度を大きく地方で活用し、いろいろな地域から子どもを預かり島根で育てるという考え方があってもよいと思う。
- 60 松江市は、音楽などの文化的催事を実施するにあたり、施設が非常に中途半端である。コンサートが開催できる規模の大きな施設を整備してほしい。

松江市総合計画・総合戦略推進会議 委員名簿

(五十音順・敬称略)

氏名	所属	備考
安部 隆	松江体育協会	
安藤 只祥	松江市社会福祉協議会	
泉 明夫	松江市医師会	
岩田 英作	島根県立大学	
太田 達也	松江サークル・コネクション	
岡 清二	総合計画審議会委員（公募委員）	
勝部 廣三	松江市町内会・自治会連合会	令和元年7月2日～
狩野 治子	松江市高齢者クラブ連合会	
河原 和弘	連合島根松江隠岐地域協議会	
桑原 正樹	宍道湖漁業協同組合	
佐藤 和彦	松江市公民館長会	
瀬崎 輝幸	株式会社エフエム山陰	
竹田 尚子	松江NPOネットワーク	
武部 幸一郎	松江圏域老人福祉施設協議会	
中澤 ゆかり	総合計画審議会委員（公募委員）	
中島 郁子	松江市連合婦人会	
長野 友子	松江市21世紀ウィメンズプロジェクト	令和元年7月2日～
中村 隆	島根県農業協同組合くにびき地区本部	
長谷川 修二	松江市PTA連合会	
秦 美恵子	島根県看護協会	
日之蔵 里佳	社会福祉審議会障がい者福祉専門分科会	
廣田 晃良	日本政策投資銀行 松江事務所	令和元年7月2日～
福島 丈太郎	松江青年会議所	令和元年7月2日～
古瀬 誠	松江商工会議所	
槇原 顯	島根県商工会連合会	
松崎 貴	島根大学	
箕田 充志	松江工業高等専門学校	
柳田 雅彦	山陰中央新報社	
吉田 修	山陰合同銀行	令和元年7月2日～

※任期：平成30年12月13日～令和2年3月31日

2 パブリックコメント でのご意見

募集期間 令和元年 10月16日(水)～11月14日(木)

意見提出者数 3名 意見項目数 6件

A 第2次総合戦略(最終案)に取り入れている意見

- 1 基本目標が、これまでの産業社会・男性中心社会(ケアをもっぱら家族=女性に依存しながら経済成長, 発展を目指してきた社会)の維持・存続を目指しているように見え, 個々の市民を尊重しているように見えない。
- 2 子育て環境を整えることはとても大切なことですが, 女性も自由な生き方を選択できることが当たり前の社会であればと思います。そうした中で「出生数2,000人」が目標であるのは違和感を覚えます。個人の自由な選択が尊重されるまちであるべきだと思います。
- 3 若者の定住を促進するためには, 働く環境やその仕事に就いた後の自分の成長や夢を描くことができるような魅力的な産業・雇用を創出する必要があると思います。松江市の産業が, 若者にとって夢や希望を持てるような仕事となるように支援をしていただきたい。
- 4 若者に選ばれるまちで重視することは「雇用」だと思います。
基本目標1では, 「地域資源を活用し, 個性豊かで強靱な産業を創り上げ, 安定した雇用を創出し, これを支える人を育て活かす」と目標設定されていますが, より若者にアプローチする産業の創出・雇用の創出を目標として施策に取り組むべきだと考えます。
- 5 子育て支援で重要なことは「待機児童の解消」です。一方で, 保育園に預けられたとしても, フルタイムで働きながら子育てや家庭を持つというのはとても大変です。女性の活躍と言われますが, この本質は「男性の意識改革」にあります。実際に子育て中の男性の家事や育児への参画を促すだけでなく, 地域社会や仕事場における男性中心で物事が決定されていく仕組みを大きく変える必要があります。この時, 今のシステムに女性の割り当てを増やすということではなく, 抜本的に形を変えるということも考えていく必要があるのではないかと思います。

B 今後の取組を検討するうえで参考とさせていただくご意見

- 6 若者・女性も巻き込んで産業社会の価値・目標(経済発展)を追求し続けるばかりでなく, 市の生き残りのためには別の価値・目標を探しそちらにシフトしていくことも考えていく必要があるのでは。たとえば, ケア, 芸術・美術, 井戸端会議(おしゃべり), カワイイ, 草食系, スローライフなど, 「おんなこども」のものとしてあまり重視されてこなかったが, こういうものを楽しく追求できるまちこそ, 「おんなこども」(若者・女性)にとって, あるいは男性にとっても, 魅力的ではないだろうか。

3 第2次総合戦略に向けた事業提案

松江市総合計画・総合戦略推進会議の構成団体をはじめ多数の皆様から、地方創生についての具体的なご提案やアイデアをいただきました。すぐに着手できる事業については、第2次総合戦略の具体的な取組に位置付け、取り組むこととしています。

A 「別冊 基本目標を実現するための具体的な取組一覧」に取り入れた提案・掲載事業の参考とした提案 ※事業名称は異なる場合があります。

基本目標1 若い世代の希望を生み出す個性豊かで地域の特色を生かした産業と雇用を創出する

- 1 「観光の街」から「観光とITの街」へ
(企業のIT化支援、IT人材の育成、IT企業の誘致、Rubyを活用したコンテンツ等)
- 2 田舎夏季リゾート松江
(豊かな自然を生かした長期滞在型観光プランの創出)

基本目標2 松江の魅力に磨きを掛け、新しい人の流れをつくる

- 3 『まつえの日』制定による、子どもたちの郷土愛と愛着の醸成
- 4 海外に届く松江の魅力発信とファン拡大事業「現代のハーンを探せ」プロジェクト
- 5 第2次総合戦略の推進にこだわった提案～地域課題解決に市民運動で取り組むために～

基本目標3 一人ひとりが個性と多様性を尊重され、誰もが活躍できる社会をつくる

- 6 多胎家庭への支援について(多胎家庭への訪問サポート等)
- 7 結婚・出産・子育て
(父親の意識向上、企業の支援制度の充実、管理職の意識改革等の実施)

基本目標4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

- 8 国宝松江城を守る活動を通じた環境活動の次世代リーダーと人材育成
- 9 移動販売車での高齢者ショッピングサポート
(移動販売を促進するための車両・ガソリンの支援等)

B 今後の取組を検討するうえで参考とさせていただく提案

- 10 「鎖国都市」松江
(「昔ながらの日本」を体験できる市としてのブランディング)

- 11 プログラミングセミナーを利用した地域活性化
(県内外の社会人(教員ほか)を対象とするプログラミングセミナーの開催など)
- 12 中心市街地の活性化について
(市民活動センターの新たな利活用/テナント利用等)
- 13 ビジネス農業の可能性
(食農教育:農業・漁業・宿泊施設をパッケージにして事業化)
- 14 「日本一お洒落な街 松江」
(ファッションをキーワードに各ジャンルの組織化、事業展開)
- 15 田舎な松江からのSOS
(県外で生活する学生を対象とする田舎な松江を考えるセミナーの開催)
- 16 世代間交流
(大学生等の参画によるふるさと教育の企画・実施)
- 17 子どもの非認知能力を育むための豊かな舞台芸術鑑賞活動
(松江市内の小中学校の児童生徒の実態にあった作品を提案助言する仕組みづくり)
- 18 子育て景観大賞
(屋外での遊びを促すため、公園や屋外で遊ぶ子どもの姿などの子育て景観を表彰する)
- 19 親の時間都合から子どもたちを守れ!
(親への責任感・時間管理の提案、企業への家庭時間確保を促すための条例制定、企業間での応援業務委託・連携)
- 20 安心して子育てするための居場所・つながりづくり
(子育て家庭が支援者や子育て中の仲間と出会う場・しくみ作り)
- 21 しゅんじ4つの構想
(園山俊二氏の理念を継承し育てていくための活動)

4 参考資料

(1) まちづくりのためのワークショップ

松江市総合計画・総合戦略推進会議を中心に参画団体同士の協働による新たな施策の展開をめざし、多様な意見交換の場としてワークショップを開催

開催日時 8月18日(日) 9:30-12:30

場所 松江市市民活動センター 交流ホール

参加者数 66人

ワークショップで出た主な意見・提案等

提案：「水辺環境の観光への活用」「怪談の活用」

- ・水辺エリアを観光と結びつけて事業を展開する(例：花火、SUP大会)。
- ・「怪談」を紹介するガイドの養成や御朱印帳を作成して市内をめぐる事業。

提案：ノマドの窓 「観光資源を活用したノマドワーカーの定住推進」

- ・ノマドワーカーに空き家で仕事をしてもらう。
- ・仕事の合間に観光や体験をしてもらい松江の良さを感じる機会を提供。

提案：ビジネス農業「農業や豊富な自然をビジネスに」

- ・料理好きな人をターゲットに、その場で採れたものを使って料理を作れる場を提供できる店を、農村内・漁村内に作る。また、その料理の食材の収穫など、食育にも関わるようなサービスを展開する。

提案：「釣り天国松江」

- ・釣り人口は約981万人いる。宍道湖でルアーフィッシングの大会を開催する。さらに、釣りのデータベース作成、釣りをする人と釣り場や宿、定住に繋がるようなマッチングなど、釣りをテーマに事業展開を図る。

検討：子育てについて「母子家庭・父子家庭支援が必要」

- ・母子家庭・父子家庭にタクシーチケットなどの金銭的な支援と、近隣住民とのコミュニティを利用して子育てを皆で助け合う地域づくりをめざしたい。

提案：「パパの子育てネジを巻こう ～パパ手帳の作成～」

- ・お父さん同士の交流ができる場(機会)やパパ手帳の作成。

提案：中海マリンパークをキャンプの聖地に

- ・有名キャンプグッズメーカーのキャンプサイトの誘致@中海

提案：公共交通「バスの無料化」

- ・バスの無料化の提案があった。松江市民一人が7,000円払えばバスが無料になるという試算がある。和菓子を買ったらバスを無料してはどうか。

(2) 松江市まちづくりのためのインタビュー

第2次総合戦略の策定に向けて、若者・女性が暮らしやすいまちづくりについての具体的な施策を検討する際の参考資料とするためインタビューを実施。

実施期間：令和元年9月～10月

実施対象：市内在住または在勤・在学の10代～40代の女性 70人

実施概要：各事業所または大学等にて、グループまたは個別にインタビュー形式により実施

まちづくりのためのインタビューから

Q.進学・就職についてご自身の経験や周囲の様子を教えてください。【一般】

- 1 大学や就職で企業を選ぶとき、やりたいことが県内にない、または県外にあった(複数)。
- 2 進学先や就職する際の選択肢が松江は少ない。
- 3 大学在学中、就職先を選ぶ際に、実家がある県と大学のある県でまず探した。友人など女性の多くは地元で就職先を探していた。
- 4 文化・芸術など、そういう職種に就こうと思ったときに県内はなかった。
- 5 大学の学部の選択肢も少ないが、進学先とその先の就職先の接続もない。
- 6 島根で就職活動する際に帰省するための交通費や時間(往復に係る時間)がもったいなと感じられ、(県外の)大学周辺で就職活動をして、決まってしまう。
- 7 同級生も県外の大学に進学したが、戻ってくる人は少ない。
- 8 進学先は、学びたい事が学べるかどうかで選んだ。
- 9 就職先は、結婚や子育てなど、将来のことを見据えたときに、福利厚生をしっかりとしているところを選んだ。
- 10 就職先は、経済面を考えて実家から通えるかどうかで選んだ。
- 11 就職先は、職場の雰囲気などを見学して選び、採用していただいた。
- 12 自分の夢を考えたときに、県内でも進学先はあったけれど、ちょっと都会で暮らしてみたい、一人暮らしをしてみたいということで、県外を選んだ。(複数)

Q.卒業後の進路、就職先についてどのように考えていますか？【学生】

- 13 社員の人の人柄の良さや仕事とプライベートの両立のしやすさを重視している。(複数)
- 14 女性は結婚とか出産など人生において大きな出来事があり、母からも「出産や子育てを考えておかないと」という話をするので、女性が働きやすい環境が整っている職場を選びたいと考えている。
- 15 人をサポートする仕事は魅力的だなと感じている。

- 16 人の役に立つ仕事がしたいと思っている（複数）。
- 17 結果が残せて、目に見えて反映される仕事がしたい。
- 18 自分の好きなことをいかせる会社が良いと思っている。都会だと企業も多く選択肢があると思っている。
- 19 若いうちから経験を積みたいというのが絶対にあり、そうなる情報や人も集まる都会で選ぶほうが良いと思っている。
- 20 松江で就職したかった。

Q.仕事のやりがいや仕事とプライベートの両立など「働くこと」についてお聞かせください。

【一般】

- 21 仕事とプライベートの両立は、会社の理解もあり満足している（複数）。
- 22 起業する人が少ないような気がする。新しいことを受け入れる環境・雰囲気がないのでは（一方、米子は起業が多い）。そのため、ロールモデルがおらず、若い人が挑戦できるという感覚が持てないのではないか。

Q.キャリア形成、出産・子育て中の働き方のイメージはどのように考えていますか？【学生】

- 23 結婚、出産しても働き続けたいと思う（複数）。
- 24 結婚はあまり考えてない、子どもを持たずにできればずっと一人で生きていきたい。
- 25 一度入った職場はやり続けたいと思う。
- 26 いろんな思いがあるが、ずっとこの会社で働くかと言えばそうではないと思っている。その時に必要なものがあれば転職もと思っている。
- 27 自分がやりたいことができる会社であるので、このままかなと思う。
- 28 今の仕事をきちんとやっていきたい。

Q.松江の子育て環境について困っていることなどありますか？【一般】

- 29 実家があり、松江に帰ってきたが、保育園に預けられずに困った（2年前、当時2歳）。
- 30 土曜保育のスタンスが「仕事が休みの時は家庭でみてください」なので、利用しづらいと感じている。
- 31 市が行う集団検診が、平日の日ち指定で実施される。土日も含めて勤務シフトを組むため、保育園の関係でなるべく日曜日を休みにしてもらっており、平日に決め打ちされると大変。もっと柔軟に対応できるとうれしい。（集団検診の実施日が複数日から選択できる、または、日曜実施など。）

- 32 第1子、2子は幼稚園に預けて、第3子を保育園に入れている人がいる。そういう方は、保育の無償化が始まると、第1子、2子を保育園に代えるのでは？また、幼稚園に預けることが出来る家庭にもかかわらず、無料だからということで（第3子を）保育園に預けると、枠がいっぱいになるのではと不安に思う。
- 33 もっと広域連携がうまくいくといいなと思う。医療費（米子で払って松江で返してもらう）、幼稚園の書類（米子なら幼稚園に出せばいいけど、松江は市役所にもっていかないといけない、しかも昼間）など。
- 34 自分自身が住む場所として松江を選んだ理由は、親が近くにいること。子どもの面倒を見てもらえる。いざという時に頼りにできる。
- 35 子育て中の母親は、孤立していて心にモヤモヤを抱えている人が多いと聞いた。お母さんたちに、出ていける場があると良いと思う。
- 36 保育所などでファミリーサポーターの活用も考えてみるといい。ファミサポの方も集団の中で預かるほうが安心されると思う。
- 37 ファミリーサポーター任せて会員の登録者数は235人もいるが、実際に稼働しているのは40人程度と聞く。車を所有していないとか、対応可能時間の関係で、声がかからないようだ。稼働できない理由を整理して解決すべき。
- 38 保育園ではなく、幼稚園などに子どもを通わせている家庭への支援の充実が必要。保育の無償化で、保育園に入れられた家庭とそうでない家庭の差が気になる。
- 39 働く支援ももちろん必要であるが、在宅の3歳くらいまでの母親に対する支援が必要。
- 40 働いていないことで肩身が狭い思いをされなくてもいいように、在宅でお子さんを見ている家庭への支援が必要。鳥取県では、おうちで子育てサポート事業として、30,000円／人が支給されていると聞いた。
- 41 子どもと一緒にいける飲食店がもっとあると良い。
- 42 子どもが喜ぶテーマパークや、屋内施設があると良い。
- 43 雨天時でも子どもが遊べる場所があるといい（複数）。
- 44 小規模の公園が少ない。また、公園に人がいない。
- 45 小さい子供を連れていっていると、車があると言ってもいろんなところに寄るのは大変なので一カ所で終わる場所があると良い。働く場所、学ぶ場所、生活用品を購入する場所の一体化。
- 46 遊べる図書館があるといい。市立図書館は子供用のスペースがあるが、一般の図書スペ

ースと一緒にだから（声は筒抜け）、気を使わないといけない。

47 小学校は1クラス30人。それでも、崩壊する学級があると聞く。

48 男性の育児休業が進んでほしい

49 仕事と子育てを両立している人はすごく頑張っていると思うが、それを上司である男性がどこまで理解できているか、理解が不足しているように感じることもある。

Q.松江の生活環境(子育て以外)で困っていることや感じていることを教えてください。【一般】

50 文化、映画館や演劇、コンサートなどを楽しむ機会がない。

51 松江では新しい価値観を得る機会がない。アートなどクリエイティブなものに触れる機会、刺激、自分が成長できるという場面の想像ができない。

52 夜遅くまで滞在できる場所がないので、人と人がつながる機会が少なくなっている。

53 買い物するところが少ない（特に服）（複数）。

54 遊ぶところが少ない。

55 米子は遊ぶところが比較的あると思う（おしゃれなカフェなど）。

56 市内なのにバス代が高い。県内の移動もお金がかかる。

57 車がないと生活できないのに、ガソリンが高い。

58 公共交通機関の本数が少ない。夜に使える公共交通がない。

59 県外への接続（交通）が悪く、山陽方面、関西方面へ行くのに時間がかかる。

60 生活費が都会に比べてかからないと言うが、コンサートや服を買いに都会に行くと交通にかかる。都会と比べたときに、そんなにメリットを感じられない。

61 治安の維持は重要。特に夜道など場所によっては街灯がなくて暗い。

62 便利な暮らしよりも安心感が重要だと思う（治安、人の優しさ）

63 自然災害が少ないので暮らしやすい

64 GWやお盆休みに空いている病院が少なくて困る。

65 都会の便利さよりも安心感（人が優しい、知っている人がいる）を優先して住む場所を選ぶ。

66 移住する前に、何回か島根に滞在したが、一週間ではその良さがわからなかった。

- 67 「女性はこうでなければならない」という周囲の考え方が生きづらさになる。独身でも充実できる。一定の年齢になると周囲から結婚を迫られる。

Q.松江での生活について困っていることを教えてください。【学生】

- 68 ごみの分別が複雑。
- 69 病院が少ない。専門科に行きたかったら近くに1院しかない。歯医者が2週間待ちとか。
- 70 観光地はたくさんあるが、遊ぶ場所がない。
- 71 買い物が不便。欲しいものが売れていないからネットを使うけど、送料がかかる。都会は物価が高いと言うが、トータルで考えるとどうかなと思う。
- 72 車を持っていないので、自転車かバスを利用している（複数）。
- 73 駅と島根大学が離れているため、夜遅くの交通手段がない（複数）。
- 74 少し前はバスがいつ来るかわかるというシステムがあったと思うが、混んでいて遅れるのは仕方ないけれど、どのくらい遅れるかがわかると良いと思う。
- 75 県外への交通手段が不便。県外に行った人から帰省しにくいという話を聞く。
- 76 東京や広島に行くとなると、交通費や時間がかかって不便な点が目立ってしまう。逆に、友達を島根に誘ってもお金がかかってしんどいと言われる。外の人からしてみると、来づらいというところがあるのかなと思う。

Q.松江市がもっと住みよいまちであるためにご意見・要望があれば自由に聞かせてください。

【一般】

- 77 駅前に人が集うような仕掛けがほしい。今は通り過ぎるだけ。たとえば、10,000人規模のホールやクリエイティブなものに触れることができる展示スペース、中国5県くらいでここでもしか取り扱ってないような店舗があるなど、県外の人を惹きつけるもの（松江に行きたいと思う動機になるもの）が必要。
- 78 戻るタイミングの一つに同窓会がある。同窓会助成を実施してはどうか。
- 79 女性にとって『美』だけでは来ないと思う。仕事でやりたいことができるとか、おしゃれなショッピングモールがあるとか、トータルでコーディネートすることが大切。
- 80 都会に寄せる必要はないと思う。景観や空気のきれいさが魅力と言うけど、それはどこにでもある。島根にある他にない価値と言え、歴史・古代・神話だと思ふ。そして、古くから続くこの地に暮らしているという誇り。
- 81 観光地の公衆トイレを充実してほしい。まちあるきを推奨するならなおさら。男女の入

口が同じというのはNG。

- 82 例えば、JR松江駅に降りて、松江市内を観光しようと思ったときに、スーツケースなどの荷物をどうするのかということになる。コインロッカーの充実や宿泊先への配送サービスなどがあると良い。荷物のために行動範囲が限定されそう。
- 83 女性にとって魅力的なまちは、治安が良い、買い物が便利、夜でもまちが明るい。
- 84 女性にとって魅力的なまちは、楽しく子育てができて、楽しく仕事ができることだ。
- 85 水辺を整備して人が集まってお金が落ちるようにしてほしい。ウォーターフロント構想の実現。
- 86 国際線の就航。
- 87 医療面の支援があると良い。
- 88 新幹線があるといい（複数）。

Q.松江市がもっと住みよいまちであるためにご意見・要望があれば自由に聞かせてください。

【学生】

- 89 アイコンがもっと増えたらいいのかなと思う。今はインスタやツイッターなどSNSがあるので、そこを使って発信するといいと思う。知る機会がないと来ようとは思わない。発信をしていかないと結びつかないのかなと思う。メディアとかと掛け合わせてやっていくことが大事だと思う。
- 90 ツイッターは上げるけど流れる。インスタの方が残るかなと思う。
- 91 安く移動できるものがあるといい。タクシーがもう少し安くなれば。学生などに支援してほしい。
- 92 大学が2つしかない。島根に大学がないから県外に出ていく。
- 93 県外に行った友達は、最初は松江に戻ろうと思っていたけど、一年半くらい大学にいたら、あっち（県外）でもいいかなと思ってきたと言っていた。
- 94 大学に入って、県外から来た子でも松江のことを知ったら、この地で就職しようと思える魅力があると思うが、大学がないから来ないし、県外へ行ってしまう。
- 95 県外の大学に行った人に、実は中小企業はこんなにいっぱいあるよとか、IT系も伸びているから島根でもできる、働く場所はちゃんとあるよと伝えることが必要。

Ⅲ 松江市まち・ひと・しごと創生《人口ビジョン》《第2次総合戦略》策定の歩み

時 期	実 施 内 容
令和元年 6 月 10 日（月）～6 月 24 日（月）	市民アンケート
令和元年 6 月 10 日（月）～6 月 21 日（金）	学生アンケート、高校生アンケート、中学生アンケート
令和元年 7 月 2 日（火）	第 1 回松江市総合計画・総合戦略推進会議
令和元年 8 月 18 日（日）	まちづくりのためのワークショップ
令和元年 9 月～10 月	まちづくりのためのインタビュー
令和元年 9 月 30 日（月）	第 2 回松江市総合計画・総合戦略推進会議
令和元年 10 月 16 日（水）～11 月 14 日（木）	松江市まち・ひと・しごと創生《人口ビジョン》 《第 2 次総合戦略》（案）についての意見募集 （パブリックコメント）
令和元年 12 月 24 日（火）	第 3 回松江市総合計画・総合戦略推進会議

令和●年●月策定

松江市政策部政策企画課

〒690-8540 松江市末次町 86 番地

TEL:0852-55-5173

FAX:0852-55-5535